

高 文 連
第 23 号
山口県高等学校文化連盟

高文連

第 23 号

山口県高等学校文化連盟

高文連

第 23 号

もくじ

ごあいさつ	1
山口県高等学校文化連盟各部門の報告	2
第33回山口県高等学校総合文化祭の記録	16
総合開会式	16
[音楽関係 4 部門]	
器楽・管弦楽部門	19
合唱部門	20
吹奏楽部門	21
マーチングバンド・バトントワリング部門	22
日本音楽・吟詠部門	23
展示 3 部門（美術・工芸、書道、写真）	24
囲碁部門	29
演劇部門	30
放送部門	31
将棋部門	32
文芸部門	33
全国高等学校総合文化祭の記録	34
総合開会式	35
器楽・管弦楽部門	36
合唱部門	37
日本音楽部門	38
美術・工芸部門	39
書道部門	40
写真部門	41
囲碁部門	42
演劇部門	43
放送部門	44
将棋部門	45
文芸部門	46
自主事業	47

参考資料

平成23年度山口県高等学校文化連盟〈事業報告・会計決算書〉	53
平成24年度山口県高等学校文化連盟〈事業計画・会計予算書〉	56
山口県高等学校文化連盟規約・諸規程・表彰規程	
（会計、事務局、旅費支給基準、調整基金細則）	59
平成23・24年度山口県高等学校文化連盟役員一覧	65
全国高文連の歌	67



ごあいさつ

山口県高等学校文化連盟
会長 松井 誠

平成23年度の山口県高等学校総合文化祭は、5月28日に行われた将棋専門部の大会を皮切りに、11月10日から13日まで開催された展示3部門（美術・工芸、書道、写真）まで、15の各専門部による大会やコンクール等が7ヶ月にわたり県内各地で盛大に開催され、本県高校生の持つみずみずしい感性を活力に、芸術文化活動が多彩に繰り広げられました。昭和60年に県内高校生の芸術文化の祭典として始まった山口県高等学校総合文化祭も33回目を迎えました。「感動の帆 創造の舵。さあ進もう光きらめく海を」のテーマのもと、高校生が総合文化祭への参加を通じ、地域の人々と交流したり、それぞれの分野の専門家と連携したりして、豊かな心や創造性をはぐくみ、活動の幅を広げるきっかけになったことでしょう。これも、校長先生や日頃から高校生の活動を支えておられる顧問の先生方をはじめ、関係の皆様の御理解・御支援のたまものと深く感謝申し上げます。

また、山口県高等学校文化連盟では、高校生が優れた文化や芸術にふれ合う機会を作り、感性を高めることを目的に、自主文化事業や補助事業を企画・開催しております。自主事業では今年度、音楽や演劇など7つの公演を県内各校で行い、感動を共有し盛況のうちに終了することができました。演奏会後には部活動指導も行われ、高校生の技術・技量を高める機会も設けて、好評をいただいております。

更に、文化芸術振興条例制定後、県内文化関係諸団体との連携をすすめ、活動の幅を広げた様々な取り組みも行っております。特に、山口県中学校文化連盟とは、美術・工芸、書道、写真の各分野において交流出品も行っているところです。

さて、第35回全国高等学校総合文化祭は、東日本大震災による影響で開催が危ぶまれましたが、福島県や全国の高校生からの強い要望、また、関係機関の精力的な取り組みにより8月3日から5日間、開催されました。山口県からは10部門102名の代表生徒が参加し、それぞれが持てる力を十二分に発揮し、演劇、写真部門等において優れた成績を上げることができました。特に、演劇部門で最優秀の文部科学大臣賞を受賞した華陵高校は国立劇場にて「カツっ」を優秀校東京公演で披露しました。このように、多くの本県生徒が全国を舞台として活躍し、日本や世界に大きく羽ばたいてほしいと願っています。

2月には各学校に文化功労賞を伝達しました。受賞された皆さんにはそれぞれの部門で更なる活躍を期待するとともに、本県の芸術文化活動の牽引する力になってほしいものです。山口県高等学校文化連盟は、これからも21世紀の担い手となる高校生の創造する力を育成し、自らの自己実現を図る取り組みを支援するなど、高校生の文化芸術活動の育成と活性化に向けて更に努力を続けて参ります。

終わりに、県高文連の活動に御支援・御協力を賜りました関係各位に心から感謝し、厚くお礼申し上げまして、発刊のごあいさつといたします。

山口県高等学校文化連盟<各部門の報告>

器楽・管弦楽部門

理事長 飯田 幸生
(下関南高等学校教諭)

山口県高等学校文化連盟器楽・管弦楽部門では今年度、次のような事業を行いました。

1. 平成23年度第33回山口県高等学校総合文化祭総合開会式において、慶祝演奏として合唱部門との合同演奏

* 6月16日(木)

* 合同演奏：

佐藤 真作曲「大地讃頌」

ヘンデル作曲「ハレルヤ・コーラス」

村井 邦彦作曲「翼をください」

指揮：柳 敏恵

* 参加出演／器楽・管弦楽部門 63名

2. 平成23年度第33回山口県高等学校総合文化祭音楽4部門発表会

* 平成23年6月17日(金)、18日(土)

* 参加各校による弦楽・ギター・マンドリン・管弦楽の演奏

* 参加出演／7校 310名

3. 第35回全国総合文化祭

* 平成23年8月6日(土)、7日(日)

* 福島市音楽堂

* 山口県立岩国高等学校が県代表として参加

* 丸本 大悟作曲
「杜の鼓動第3樂章 街の灯」演奏

4. 平成23年度山口県高等学校文化連盟器楽・管弦楽部会

* 平成23年11月30日(水)

下関南高等学校会議室

部会長以下出席者6名

* 第31回器楽・管弦楽スプリングコンサート
(下関大会)、県総文、全総文、高文連表彰、役員改選などについて協議

5. 第31回器楽・管弦楽スプリングコンサート

* 平成24年3月25日(日)、

下関市生涯学習プラザ

* 参加7校によるギター・マンドリン、管弦楽などの演奏

今年度の全国総合文化祭福島大会では、本県代表の岩国高等学校が素晴らしい演奏を披露いたしました。本県の器楽・管弦楽部門のレベルは全国的にみても、非常に高いものだと思います。次年度以降もますます、発展していくことを確信しています。



合唱部門

理事長 田中睦
(野田学園高等学校教諭)

山口県高等学校文化連盟、合唱部門に関して行われた今年度の行事を報告いたします。

1. 山口県高等学校合唱講習会（開幕式典に備えての講習会）

- ・平成23年5月29日（土）
- ・講 師／坂本かおる（ヴォイストレーナー）
- ・内 容／基礎的発声と練習への取り込み方
- ・曲 目／“オラトリオ《メサイア》より
「ハレルヤ・コーラス」”
“カンタータ《土の歌》より
「大地讃頌」”
- ・場 所／山口県教育会館ホール
- ・参加者／8校 154名

今年度は、ヴォイストレーナーとして活躍されている坂本かおる先生をお招きした。先生が指導されている各学校は、国内の各種コンクールで輝かしい実績を残していることから、生徒はとても熱心に受講していた。基礎的な身体の使い方や、楽しみながら練習する効果的な方法を教えていただくとともに、事前に各校で調査した質問にも、一つ一つ丁寧に答えてくださった。部活だけでなく、毎日の生活の中に歌声を取り入れるのが、最大の上達への近道であると生徒は痛感し、充実した講習会となった。

2. 平成23年度第33回山口県高等学校総合文化祭開幕式典において慶祝演奏

- ・6月16日（木）
- ・山口県高等学校管弦楽団との合同演奏
- ・曲 目／“オラトリオ《メサイア》より
「ハレルヤ・コーラス」”
“カンタータ《土の歌》より
「大地讃頌」”
- ・山口県高等学校合唱団／8校 166名

今年は、昨年と同様、オラトリオ《メサイア》より「ハレルヤ・コーラス」、カン

タータ《土の歌》より「大地讃頌」”を演奏した。日ごろ小人数で活動している生徒達にとって、この大合唱は貴重な経験となったようである。ここ数年、男声部員が増加傾向にあることから、非常にのびのびとした声で充実したハーモニーを奏でることができた。最後に会場の人と一緒に歌った「翼を下さい」ではホールの熱気が最高潮に達し、感動のうちに幕を閉じた。

3. 平成23年度第32回山口県高等学校総合文化祭音楽4部門発表会

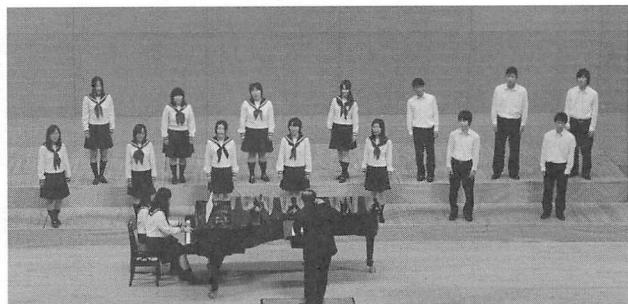
- ・6月17日（金）、18日（土）
- ・光市民ホール
- ・合唱部門出演者／8校 158名

4. 第34回全国高等学校総合文化祭

- ・8月5日（金）
- ・福島市音楽堂（福島県）
- ・山口県代表／山口県立萩高等学校合唱部

5. 平成23年度山口県高等学校文化連盟合唱部会及び研修会

- ・12月5日（金）
- ・野田学園高等学校会議室
- ・出席者／部会長以下8名
- ・議 題／県総文、全総文、高文連表彰、植樹祭などについて



吹奏楽部門

理事長 志道博資
(宇部高等学校教諭)

平成23年度山口県高等学校文化連盟吹奏楽部門の活動状況を報告いたします。

1. 山口県高等学校総合文化祭開会式

周南地区引き受け光高等学校主管で、6月16日(木)光市民ホールにおいて盛大に開催されました。本部門は昨年と同様に、引き受け地区の高等学校が合同で吹奏楽団を編成し、慶祝演奏に参加いたしました。下松高校の上田憲明先生の指揮により、『ライヴリー アヴェニュー』と『ヴィヴァ・マッシー』を演奏いたしました。

2. 山口県高等学校総合文化祭音楽4部門発表会・連合音楽会

総合開会式の翌日から2日間、光市民ホールでの開催でした。17日(金)は23団体、18日(土)は29団体が参加しました。吹奏楽部門の参加生徒数は昨年より若干減り1,650名でした。どの団体も熱のこもった素晴らしい演奏だったと思います。

3. 全国高等学校総合文化祭

今年度の全総文祭吹奏楽部門は8月4日(木)と5日(金)の2日間、福島県いわき市のいわき芸術文化交流館アリオスで開催される予定でした。本県代表として山口高校が出場を予定していましたが、3月11日の大震災の影響で開催が中止となりました。

4. 山口県高文連吹奏楽部門総会・研修会

本部門の総会と研修会を12月1日(木)に宇部高校で行いました。昨年より10名ほど多い33名の吹奏楽部指導教員が集まり、お互いが吹奏楽への熱い思いを共有し、実りのある協議ができました。また、研修会では広島大学及び広島文化学園大学講師の中井 勝先生に講演をしていただきました。我々に活力と勇気を与えてくださると共に、激励のお言葉も沢山いただけた有意義な研修会でした。



マーチングバンド・バトントワリング部門

理事長 内田良一
(山口県鴻城高等学校教諭)

平成23年度山口県高等学校文化連盟マーチングバンド・バトントワリング部門の活動状況を報告いたします。

1. 第33回山口県高等学校総合文化祭総合開会式

平成23年6月16日(木)

テーマ「感動の帆創造の舵。さあ進もう光りきらめく海を」

光市民ホールにて開催されました慶祝演奏では、山口県鴻城高等学校吹奏楽部が、マーチングの演技が披露されました。

曲目「オリンピック・ファンファーレ」



2. 第33回山口県高等学校総合文化祭音楽4部門発表会

総合開会式の翌日、17日・18日の2日間同じ光市民ホールで開催されました。本部門では、誠英高等学校、慶進中学校・高等学校の2校が参加いたしました。

3. 部門研修

平成23年度マーチング講習会 3月20日(火) 南総合センターアリーナ・グランドにて山口県吹奏楽連盟と合同主催で実施しました。

日本音楽部門



平成23年度日本音楽部門の活動について報告します。

1. 第33回山口県高等学校総合文化祭総合開会式

光高等学校の主管により、6月16日(木)光市民ホールにおいて、華やかに開催されました。慶祝演奏のトップを飾り、地元の聖光高等学校筝曲部の皆さんによる『夕映えの街～出会い～』(菊重精峰 作曲)が演奏され、尺八のパートを弾くキーボードと琴が見事にマッチしていました。古典的な楽器と現代的なキーボードの合奏が斬新でした。来年度からは慶祝演奏がなくなるので、日本音楽部門としては、最後の舞台となりました。

2. 第33回山口県高等学校総合文化祭日本音楽・吟詠部門発表大会

6月18日(土)午前10時より、柳井学園高等学校の主管により、県内20校の参加で盛大に開催されました。会場は「アクティイ柳井」。二度目の利用でしたが、今回は太鼓の参加校の増加等で搬出・搬入がやや困難でした。収容人数はちょうどよかったです。会場については検討課題を残しました。演奏は各校ともすばらしいもので、さらなる部員確保が望まれるところです。本県はコンクール形式をとっていないので、各校がお互いの良さを学びながら、交流を深め合う場にもなればと期待します。その意味でも合同演奏は、継続していきたいものです。選曲はマンネリにならないよう、また各校の負担にならないよう、また邦楽の良さを実感しながら演奏できるようなものを選んでいいたらと思います。

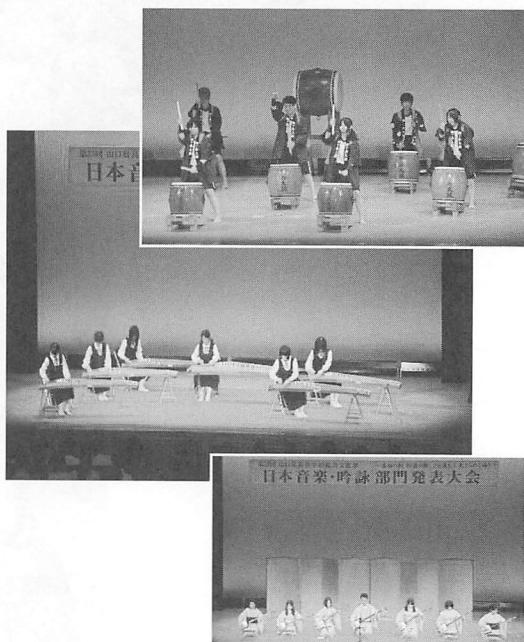
3. 第35回全国高等学校総合文化祭〈福島大会〉

今年度は事情により、不参加となりました。3月の震災で、日本音楽部門の事務局の学校も被災され、ホームページでは、途中から教

理事長 木坂 佳津江
(岩国高等学校教諭)

室が連絡先となっていましたのでして、開催が危ぶまれましたが、須賀川文化センターから県南部の棚倉町「棚倉文化センター倉美館」に会場を移し、無事開催の運びとなりました。専門部会では、大会の運営担当の方が涙ながらに開催に至ることを話され、胸がつまる思いでした。昨年一昨年の大会引き受けの県の応援があり、スタッフとしておそろいの福島の桃色のTシャツに身を包んでおられました。大会後の交流会は、会場が狭くなつたため、入場制限がありました。

大会そのものは、全国51校の参加で盛会裏に幕をとじたようです(2日目は鑑賞できませんでした)。今回の特徴としては、芸術科をおく学校の参加が幾つもあったこと、三味線を加えた合奏が多かったこと、雅楽の演奏と舞があったこと、5~6人の少人数構成の学校が多くなっていたこと、などがあげられます。



美術・工芸部門

理事長 濱崎 洋
(柳井高等学校)

平成23年度美術・工芸部門の主な活動について報告いたします。

1. 山口県高等学校総合文化祭総合開会式での慶祝展示

6月16~18日、光市民ホールにて慶祝展示を行いました。周南地区の各校から作品を出品していただき総合開会式に華をそえました。

2. 全国高等学校総合文化祭〈福島大会〉

3月11日の東日本大震災の影響で展示会場の福島県立美術館と、部門開会式、講演・講評会、交流会の会場の福島市国体記念体育馆は壁や天井が崩落するなど大きな影響があり、復旧が間に合わないということで開催が危ぶまれましたが、何とか7月中の復旧にめどが立ち、開催されることになりました。

作品展示は8月3日から7日まで福島県立美術館で行われました。全国から410点の出品がありました。いずれもレベルの高い作品で、見ごたえのある展示となりました。その中にあって、本県から出品した平面作品5点、立体作品1点はそれぞれに作者の思いや気持ちが込められた完成度の高い作品として全国にアピールできたと思います。

全国の質の高い多様な表現を観ていると、生徒が何に影響を受け、どのように自分の中に取り入れ、自分の個性とどう結びつけて表現していくのか。我々指導者はそれをどのように導き手助けしていったらよいのか考えさせられました。教師の教え込みが強い作品、技術指導が行き過ぎた作品はいかがなものかと思いますが、生徒にもいろいろなタイプがあって、教師に与えられたものを一生懸命やっていて、そこからいざれ何かが生まれてくることだってあるわけで、指導の難しさ、奥深さを感じました。

さて、諸行事ですが、部門開会式と講演・講評会、交流会は展示会場から1km以上離れた福島市国体記念体育馆で行われました。会場間は連絡バスの運行がありました。講演・講評会ではクリエイティブディレクターの箭内道彦（やない・みちひこ）氏が、美術をやる人は主観的に進めることができて大切であるし、同時に客観的に観れることも大切であること

についてなど、自分の高校時代、受験生時代、今の仕事のことなどの経験を交えて講演されました。この展覧会は金賞やグランプリがないのがいい、ということを言われ、自分は好き、自分はほしい作品ということで何点か紹介されました。本県からは岩国高校「鮮魚売ってます」が紹介され、タイトルの付け方がうまいなどの好評を受けました。

交流会は「都道府県を『貼り絵』で表現してみよう！」ということで、全国からの参加生徒と、福島県の生徒が47の班に振り分けられ、各班は割り当てられた都道府県の特色などをデザインし、1.8m×1.8mの貼り絵で表現するというものがありました。

参加した生徒の感想を別ページ（全国高校総文祭の記録）に掲載していますので御覧ください。

3. 山口県高等学校総合文化祭展示部門

11月11日から13日まで山口市民会館展示ホールで開催されました。詳細につきましては別ページ（山口県高校総文の記録）に掲載していますので御覧ください。

4. 美術・工芸部連絡協議会および研修会

10月20日に柳井高等学校で行いました。20名の参加がありました。美術の専門でない部顧問の先生や、非常勤講師で指導者の先生も参加され、より充実した協議・研修会となりました。協議会では部活動の問題点や総文祭のあり方について意見交換がなされました。研修会では、全国大会の作品のスライドショーと柳井高校美術部の活動紹介がありました。これから多くの顧問や指導者の参加を期待しています。



書道部門

理事長 桜山 美智子
(長府高等学校教諭)

平成23年度山口県高文連書道部門の主な活動について報告いたします。

1. 山口県高校総合文化祭総合開会式

今年度慶祝展示として、徳山・光丘各高校から、半切縦や横、軸の7点の力作を出品してもらい、会場の通路となる小スペースを落ち着いた雰囲気にしてくれました。



2. 第13回高文連書道部会生徒研修会

今年度の研修会は、山口国体が直前に迫り、関連の練習や準備などもあり、生徒も教員も忙しい最中でしたが、生徒40名、教員6名の参加により実施することができました。研修内容として共同作品、一字書創作、県総合文化祭出品作品の練習に取り組みました。今年度の共同作品は漢字仮名交じりの書ということで、冬の俳句を題材とし、各班で話し合いを進めながら全紙2分の1にまとめていきました。書との調和を考えながら、顔彩の使い方も工夫し、班毎に違った雰囲気の作品が出来上がりました。屏風仕立てにし11月の県総合文化祭において展示することができました。書道は一人ひとりが作品と向き合い、時には孤独に感じることもありますが、このような形で県内の書道部の生徒と一緒に交流を図りながら、作品を創りあげていくことも、また別の書の楽しみとなったのではないでしょか。来年度も多くの生徒のみなさんの参加によって、県内書道部の交流を深めていきたいと考えています。



写真部門

理事長 尾崎勝利
(新南陽高等学校教諭)

平成23年度の山口県高文連写真部門の活動状況について報告いたします。

1. 平成23年度第33回山口県高等学校総合文化祭総合開会式での慶祝展示

6月17日(土)の総合開会式から、18日(日)までの音楽4部門発表会・連合音楽会の期間中、本年度全国大会出品(展示時は出品予定)作品を展示しました。

今年の全国大会出品作品は次の5点です。
宇部工業高等学校 立石裕子「丁髷(ちよんまげ)」
宇部工業高等学校 潮中稜汰「勝利」
下松高等学校 兼重紗也香「鬼さん こーちら!」
下松高等学校 藤田智乃「ここほれ!」
新南陽高等学校 永富さと子「なんともいえねえ」
作品展示にご協力くださいました関係者の皆様に感謝いたします。

2. 平成23年度第35回全国高等学校総合文化祭(福島大会)写真部門

全国高校総文写真部門は全国展が8月3日～7日の期間に会津若松市の福島県立博物館で、企画展が会津若松市文化センターで行われました。震災の影響により、参加までのすべての手続きが、直前に行わざるを得ない中、関係各位のご努力で、開催され、何の不便を感じることもなく参加することができました。308点もの各都道府県の代表作品による全国展は、やはり優れた作品が多く、講師のコメントにあるような「身近・日常」の題材の中に「作品の主題(テーマ)」をもって撮影することの大切さを再確認しました。

なお下松高等学校3年生兼重紗也香さんの作品「鬼さん こーちら!」が奨励賞(上位30作品)に選出されました。おめでとうございます。

3. 第33回山口県高等学校総合文化祭展示部門

11月11日(金)～13日(日)
山口市民会館にて県総文展示部門の作品展示が行われました。写真部門は昨年度からデジタル作品も選考の対象としたことや、各校の写真部顧問の熱心な指導や取り組みの結果、過去最多の123点の作品が集まりました。これは2年前の作品数(63点)のほぼ2

倍になります。また、昨年に引き続き、審査員としてプロカメラマンである(社)日本写真家協会会員のタカオカ邦彦先生をお迎えし、「プロの眼による選考」が叶いました。審査の結果12点が優秀賞に選ばれ、そのうち5点が来年の全国高校総文富山大会への出品候補作品となりました。最終日の講評会ではタカオカ先生からのていねいな講評があり、参加された生徒・顧問の皆さんも学ぶことが多かったのではないかと思います。

今回の新しい取り組みとして、県高校写真部が今の日本を「励ます」意味で「笑顔」をテーマとした作品撮影・作品展示を行いました。

また、展示会場入口には、「高校写真部による東日本大震災復興応援プロジェクト」の作品展示が行われました。

(プロジェクトのホームページ

<http://www.facebook.com/yell4japan/>)

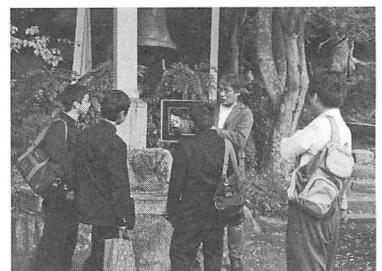
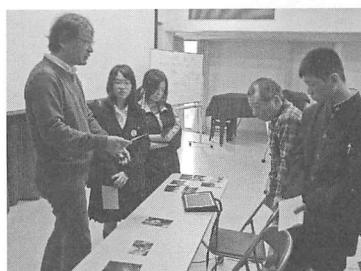
主管校の先生方、役員の先生方、また補助員の生徒の皆さんに感謝いたします。

4. 撮影研修会・提出作品の講評会

展示部門の会期最終日に亀山公園に於いて、タカオカ邦彦先生による撮影研修会があり、45名(生徒37名、顧問8名)の参加がありました。生徒は「絵画の額縁を用いた作品」をテーマに、撮影した後、提出された一人一人の作品をスクリーンに投影し、作品に対する本人の説明の後、タカオカ先生のご助言を受けました。熱心に撮影している生徒達の様子は山口県の高校生作品のレベルアップを期待させるものでした。

また、2月には生徒・顧問から提出された作品に対して、タカオカ先生による作品講評がなされる、という形での研修会を行います。

今後も同様な形で研修会を開催し、写真部員の技術向上に役立てたいと考えています。



囲碁部門

理事長 高野朝男
(下関西高等学校教諭)

<平成23年度の主な活動>

1. 全国高等学校総合文化祭囲碁部門大会

- (1) 期日：8月4日(木)、5日(金)
- (2) 場所：福島県「コラッセふくしま」
- (3) 出場者と成績：
 - 団体戦
 - 安藤 翼(山口) 石川 征憲(山口)
橋岡ちひろ(徳山商工) 2勝4敗 30位
 - 個人戦
 - 男子 村野 朋哉(下関西) 2勝4敗 37位
 - 女子 武谷明日果(防府商業) 1勝5敗 37位

2. 山口県高等学校総合文化祭囲碁部門大会

「第33回山口県高総文祭の記録」に掲載



(中国大会 対局風景)

3. 第15回中国高等学校囲碁選手権大会

- (1) 期日：12月24日(土)、25日(日)
- (2) 場所：島根県「パルメイト出雲」
- (3) 参加者：71名
- (4) 成績：
 - 個人戦
 - 男子 右田 貴大(山口農業) 2勝3敗 19位
富田 周作(山口) 3勝2敗 14位
宮崎 直也(徳山商工) 1勝4敗 26位
出井 凌(徳山商工) 0勝5敗 30位
山下 将大(防府商業) 2勝3敗 24位
内田 聖也(防府商業) 1勝4敗 29位
 - 女子 原田 美咲(田布施総合支援)
3勝2敗 7位
多田紗弥子(徳山商工) 2勝3敗 11位
伊藤 唯(徳山商工) 2勝3敗 12位
- 団体戦
- 男子 下関西高等学校 2勝3敗 3位

4. 囲碁研修大会

- (1) 期日：7月18日(月)
- (2) 場所：下関西高等学校
- (3) 指導：日本棋院プロ棋士
山本賢太郎五段

演劇部門

理事長 金森健一
(下関西高等学校教諭)

演劇部の舞台上演は、毎年夏休みから始まります。4月に新入部員を迎えて1学期の間、キャストの演技練習はもちろんのこと、上演台本の選定・大道具・小道具・衣装・音響・照明プラン等の制作を行い、キャスト・スタッフが協力して夏の演劇上演に備えます。以下に、年間の主な活動をまとめてみます。

1. 全国大会（香川）8月5～7日

華陵高校が最優秀（全国1位）獲得。高文連に加盟している全国2000以上の演劇部の頂点に立つ快挙です。

2. 地区大会（県内4地区）8月11～19日

- ① 11～12日 下関地区大会 7校参加
下関市生涯学習プラザ
- ② 13日 山防地区大会 7校参加
山口南総合センター
- ③ 13日 周南地区大会 4校参加
周南市市民館
- ④ 19日 宇部地区大会 4校参加
宇部市文化会館

地区大会は、県下すべての演劇部にとって1年間の練習成果発表の場であり、県大会、中国大会、全国大会へとつながる唯一の大会です。

3. 演劇講習会（宇部中央高校）9月12日

演出家の田野邦彦氏（青年団演出部／R o M T主宰）の指導で、演技と創作のワークショップを行いました。（午前：シアター・ゲーム 午後：72文字演劇の創作と発表会）県下各地から約100名の生徒が集まり、演技・創作技術の向上を図ります。競い合うのではなく協力し合うことがテーマとなる年1回のこの講習会は、演劇を愛する者同士の格好のコミュニケーションの場ともなっています。

4. 第33回山口県高等学校総合文化祭演劇部門（県大会）10月29～30日 8校参加

5. 各地区企画による活動

- ① 12月25日 宇部地区演劇講習会
4校参加 サビエル高校
- ② 2月13日 周南地区演劇新人大会
5校参加 周南市社会文化ホール
- ③ 3月23日 下関地区第19回合同公演
7校参加 下関市民会館

学校の枠を超えて協力して一本の演劇を作り上げる合同公演や、各校ごとに1、2年生を中心とした新メンバーによる初めての演劇発表や合評会など、地区の独自性を生かした企画が計画・実施されています。

1本の演劇が舞台で上演されるまでには、そこに至る長い練習とさまざまな準備が必要です。この練習や準備の中で、忘れない素晴らしい体験をし仲間としての絆が生まれます。演劇は参加する人の心が深いところで一つにつながらなければ成立しない芸術です。私たちは、これからも演劇を通して、人とつながり理解し合うことの喜びを伝えていきたいと思っています。



宇部中央高校

放送部門

理事長 小倉誠司
(岩国高等学校教諭)

平成23年度放送部門の主な活動を報告いたします。

1. 第35回全国高等学校総合文化祭（福島大会）

当初8月6日(土)、7日(日)に福島県郡山市の「ビッグパレットふくしま」で開催される予定だった福島総文放送部門ですが、震災の影響で、CD-R及びminiDVによるテープ審査に変更されました。

直接会場で他県の発表を聞いたり、交流したりする機会がなかったのは大変残念（特に3年生部員は）でしたが、事情を考えると仕方がないことだと思います。

残念ながら、昨年度の宮崎大会に続いて山口県からの入賞はありませんでした。（参加者、参加校は下記のとおりです）

【アナウンス部門】

- | | |
|--------|----------------------|
| 光高等学校 | 木本健太郎「無題」 |
| 下松高等学校 | 古賀 舞美
「山口国体総合開会式」 |
| 徳山高等学校 | 永野瀬理花
「山口美少女図鑑」 |

【朗読部門】

- | | |
|--------|--------------------|
| 山口高等学校 | 何 瑞「少年譜」 |
| 山口高等学校 | 高佐原 舞
「くちぶえ番長」 |
| 徳山高等学校 | 下村 楓
「カシオペアの丘で」 |

【オーディオピクチャー部門】

- 岩国高等学校「おいでませ！山口国体」

【ビデオメッセージ部門】

- 岩国高等学校「岩国藩鉄砲隊」
山口高等学校「大内のお殿様」

2. 第33回山口県高等学校総合文化祭第18回放送部大会

11月12日(土) ニューメディアプラザ山口で行われました。（詳細は31ページの「第33

回山口県高総文祭の記録」をご覧下さい。）

3. 研修会

第1回6月11日(土)周南市保健センター、第2回12月17日(土)山口高校で、今年もフリーアナウンサーの安田知博さんを講師にお迎えして「読み」の技術向上の研修会を行いました。3月20日(祝)に岩国高校で第3回の研修会を行う予定です。

4. おいでませ！山口国体・山口大会

昨年秋に開催された「おいでませ！山口国体」の総合開会式・閉会式では光高校の木本健太郎君、下松高校の古賀舞美さん、山口高校の高佐原舞さんが、「おいでませ！山口大会」の総合開会式・閉会式では徳山高校の永野瀬理花さんと下村楓さん、岩国高校の新山真梨さんが、それぞれ式典アナウンサーとして大会の会場アナウンスを行いました。何千人の観衆を前にしてスタジアムの放送席からアナウンスを行ったことは貴重な経験になりました。

また、開催前から各種PRイベントに参加し広報活動に携わったり、各競技会場で会場アナウンスや表彰式等の司会を担当するなど、各校放送部員はこの大会で様々な活動を経験する事ができました。



将棋部門

理事長 岡 茂樹
(防府高等学校教諭)

事務局は防府高校で、例年通り3つの事業を実施しました。

1. 山口県高等学校総合文化祭

総合開会式の慶祝展示

6月16日(木)～18日(土)にかけて光市民ホールで開催された総合開会式で、パネル写真を展示しました。5月の県総文の対局の様子を写真で紹介しました。

2. 第33回山口県高等学校総合文化祭

将棋部門大会 兼

第47回全国高等学校将棋選手権大会県予選

防府高校の担当で、5月28日(土)、29日(日)の2日間、防府市文化福祉会館で開催されました。男子は16チーム、女子は2チームの参加で、初日は団体戦。2日目は14校76名の参加で、男女の個人戦が繰りひろげられました。男子団体戦は、ベスト8に2チーム残した防府・下関西・徳山の実力伯仲の3強の大接戦。予選1敗からの粘り強い逆襲で、防府高校が優勝。女子団体戦は昨年全国5位のメンバーが残る防府高校が連覇し、初の男女アベック優勝を果たしました。男子個人戦は近年にない高いレベルの混戦を長府高校1年の秋山君が初制覇。女子個人戦は5人が参加するリーグ戦を、徳山高校3年の杉林さんが制しました。北村公一アマ六段、田中佳久山口県名人の熱心な御指導も受けることがで



き、2日間で百名を超える参加者で大盛況の大会でした。

3. 山口県高等学校文化連盟将棋専門部研修会

防府高校の担当で、11月6日(日)に防府市文化福祉会館で開催しました。先生方は大会運営の研修と情報交換。生徒は、対局を中心とした棋力向上を図る内容でした。11校、67名の参加でした。北村公一アマ六段、田中佳久山口県名人の御協力を得て指導対局、大盤解説をしていただきました。

《研修対局の結果》

○男子

- | | | |
|----|-------|-----------|
| 1位 | 福永 晃彦 | (宇部高専2年) |
| 2位 | 原田 達矢 | (防府高校2年) |
| 3位 | 秋山 宜楓 | (長府高校1年) |
| 3位 | 逆井 晋 | (徳山高校2年) |
| 5位 | 木村昭太郎 | (下関西高校2年) |
| 5位 | 大平 哲也 | (徳山高校1年) |

○女子

- | | | |
|----|-------|----------|
| 1位 | 大村 有恵 | (防府高校2年) |
| 2位 | 木内麻莉乃 | (徳山高校2年) |
| 3位 | 藤原 知子 | (防府高校2年) |

年末に広島市で行われた中国将棋選手権大会では、秋山君が第3位、木村君が第5位、福永君が第7位、原田君が第8位とベスト8に男子が4人。また女子の部では大村さんが全勝優勝と山口県勢が大活躍でした。



文芸部門

理事長 國嶋洋治
(徳山商工高等学校教諭)

今年度の文芸部門の活動状況を報告します。

1. 山口県高校総合文化祭総合開会式慶祝展示

文芸部門は、第8回山口県文芸コンクール入賞者が自身の受賞作のイメージを絵画等に描き、個人最優秀者の作品を額装にした4作品を展示しました。あわせて県内各高校の文芸誌及びコンクール作品集を展示しました。

2. 全国高等学校総合文化祭（福島大会）

東北震災の影響で当初の会場・日程を変更して、8月4日(木)から8月6日(土)の3日間、福島県猪苗代町の磐梯青年の家を会場として、全国総文祭文芸部門大会が開催されました。山口県代表として、西京高校1名、柳井商工高校1名の2名が参加し、例年より縮小した大会でしたが、大変有意義な大会でした。

3. 第9回山口県文芸コンクール

今年度の県コンクールには10校85作品60名の応募があり、この中から各部門最優秀5作品、入選8作品を選びました。

1・2年生のみの応募でしたが（全国総文に推薦のため）力作ぞろいで内容の濃い作品集になったと思います。

来年度開催予定の全国総文（富山大会）に2校を推薦しました。

4. 第26回全国高等学校文芸コンクール

今年度は、詩部門で萩高校の河村さんが優良賞、徳山高校の西村さんが入選となりました。例年に比べて入賞者か少なかった大会でした。来年は多くの学校の生徒さんが応募されるように望みます。

5. 第13回高校生文芸道場中国ブロック大会 (岡山大会)

11月19日(土) 文芸道場中国ブロック大会が、岡山県就実大学で開催され、全体の出席数も245名と多く、手馴れた感で大会運営をこなしていました。今年度もワークショップがあり生徒たちが大変熱心に分科会に臨んでいました。大会にあわせて行われた作品コンクールには山口県から文芸誌部門で山口高校が入選、詩部門で萩高校の河村さんが優秀賞の以上が入賞しました。山口県の作品は今年度は、例年なく受賞者が少なくさびしい思いをしましたが、来年度は山口大会ですので数多くの人が応募していただき多くの人が入賞してほしいです。



自然科学部門

理事長 大田和子
(山口中央高等学校教諭)

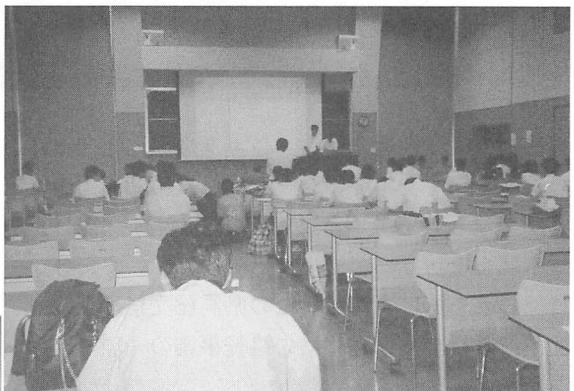
自然科学部門は、山口県高文連15番目の専門部として誕生し、平成23年6月、高等学校文化連盟全国自然科学専門部に加盟しました。この専門部は平成8年、協賛部門として第20回全総文祭で開催されて以来、15年をかけ、正式部門にいたり、その間多くの方々のご苦労があったものと推察されます。また、設立準備段階で23道県に設置されていましたが、平成23年度現在では30道県に自然科学専門部が設置されています。

そして、平成23年8月第35回全国高等学校総合文化祭—ふくしま大会2011で正式部門として第1回大会が開催されました。そこでは研究発表（物理・化学・生物・地学）やポスター（パネル）発表においても、活発な研鑽と交流が行われました。

山口県高文連では自然科学部門を各高校で日頃から地道に活動を続けている自然科学に関係する部活動・同好会を対象に、研究成果を発表しあい、意見交換をする場を提供し、自然科学への興味をもっと引き出し、研究を深め、発展させたいという目的で設置されました。

また、よりすぐれた研究には、全国大会での発表の機会が与えられます。

山口県の自然科学部の皆さん、全国総合文化祭での発表を目指して、より研究に励まれることを期待しています。



第33回 山口高等学校総合文化祭の記録

総合開会式

会場：光市民ホール

主管校 中野英治
(光高等学校教諭)



『感動の帆 創造の舵。 さあ進もう 光きらめく海を』を今年度のテーマにした第33回山口県高等学校総合文化祭が、平成23年6月16日(木)を皮切りに、光市民ホールにおいて、3日間の幕をあげました。この県高総文祭は第5回山口県総合芸術文化祭の協賛事業の一環でもあります。

光市は、瀬戸内の温暖な気候の中にあり、自然環境にも恵まれている町です。このすばらしい自然環境の中で、県内の文化部で日頃から活動されている生徒の皆さんが充実した感動のステージを繰り広げて頂いたことに、まずはお礼を述べたいと思います。また、この県高総文祭を成功裏に導いて頂いた周南地区のご協力を頂いた先生方のご尽力や光市内の高校から、聖光高校、光丘高校、そして光高校の生徒の皆さん方が参集し、高い文化の祭典を開催することができたことにも大変感謝したいと思います。

総合開会式の式典では、主管校光高等学校の生徒代表である片山大作君による開会宣言とともに周南地区高等学校合同吹奏楽団による『高校総文のためのファンファーレ』で華やかに開幕しました。それに続いて「高文連の歌」をバックに各専門部のプラカード14旗を持つ野球部の男子生徒達が入場。ステージ壇上に横二列に並びました。そして、主催者の山口県高等学校文化連盟松井誠会長のあいさつ、山口県教育委員会教育長からのメッセージと続き、主管校生徒代表の大野倫弘君から「県内各地から多数の高校生の皆さんをお迎えしての文化祭が盛大に開かれることに大変な喜びと感動を感じています。ぜひみんなの力で、すばらしいステージを創りあげましょう」と呼びかけが場内の生徒の皆さんに向かって力強くありました。続いて当地光市長のメッセージも披露されました。

その後、山口県高等学校文化連盟功績者濱野

邦昭先生の表彰（本人欠席のため紹介のみ）やテーマ最優秀賞の表彰が行われた後、演劇部門から始まって文芸部門まで各14部門が日頃の活動や実績などを壇上のプラカードとともに紹介されました。

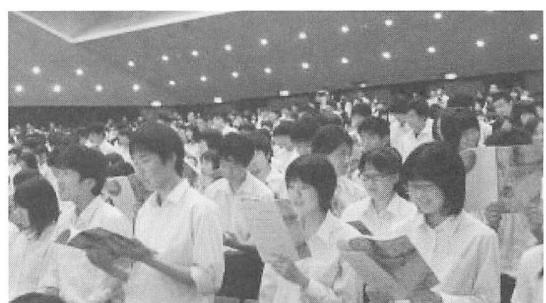
総合開会式後半の慶祝演奏は、聖光高等学校の筝曲部『夕映えの街一出会いー』琴のしとやかな音色から始まりました。会場の皆さんも日頃あまり耳にしない日本音楽の音色に聞き耳を立て、すばらしい演奏に静寂の空間を作っていました。

続いては、それとは打って変わって、山口県鴻城高校によるマーチングバンドの演奏です。会場中程で指揮を執る内田良一先生。眼を見開くような音楽とマーチングの見事な一体感。本当にすばらしい演奏が披露され、会場の生徒の皆さんを固唾を飲んで鑑賞しました。次に周南地区高等学校合同吹奏楽団、指揮上田憲明先生による吹奏楽演奏。山口県高等学校合唱団、指揮柳敏恵先生による壮大な合唱曲とハレルヤの演奏。最後に会場のみんなと一緒に立ち上がって歌う「翼をください」の全員合唱。気持ちをひとつにしてみんなで歌い上げ、音楽のすばらしさを実感したすばらしいエンディングでした。

なお、最初から終わりまで幕間出演および進行アナウンスに尽力してくれたのは、光高等学校放送部の生徒のみなさんでした。

また、ロビーでは、美術・工芸、書道、写真、囲碁、将棋、演劇、文芸部の慶祝展示を行い、各部の力作や見事な作品、大会風景、昨年度個人最優秀作品などの展示を行いました。

式を振り返って感じたことは、一年前から準備した主管校である本校の準備も行き届かないことが多々ありましたが、それを補いサポートして頂いた多くの関係各位や先生方、文化連盟事務局の方々、各専門理事長、とりわけ周南地区の先生方には大変感謝しています。重ねてお礼を申し上げます。皆さんの協力とあたたかい励まし、そして、生徒達の熱い想いで総合文化祭は成功し、連盟規約第1章第3条の「目的」は何とか達成された思いです。文化が人間を育み、こころを育てることの重要性を確認でき、みんなの力で創り上げることの喜び、そして、文化のすばらしさを実感する文化祭であったと思います。皆さんにこころから感謝申し上げます。ありがとうございました。



◎慶祝演奏

◇ [日本音楽]

『夕映えの街ー出会いー』

【演奏】聖光高等学校箏曲部

◇ [マーチングバンド]

『Olympic Fanfare & Theme』

【演奏】山口県鴻城高等学校

〈指揮〉内田 良一（山口県鴻城高校）

◇ [吹奏楽]

『ライヴリー アヴェニュー』

『ヴィヴァ・マッシャー』

【演奏】周南地区高等学校合同吹奏楽団

〈指揮〉上田 憲明（下松高校）

◇ [合唱、器楽・管弦楽]

“カンタータ《土の歌》”より

『大地讃頌』

“オラトリオ《メサイア》”より

『ハレルヤ・コーラス』

【演奏】山口県高等学校合唱団

山口県高等学校管弦楽団

〈指揮〉柳 敏恵（光高校）

◇ [全員合唱]

“翼をください”

【演奏】山口県高等学校合唱団

山口県高等学校管弦楽団

〈指揮〉柳 敏恵（光高校）

◇ [放送]

幕間出演及び進行アナウンス

光高校

◎慶祝演奏出演校

[日本音楽]

聖光高等学校

[マーチングバンド]

山口県立鴻城高等学校

〔周南地区高等学校合同吹奏楽団〕

光丘 下松 華陵 下松工業 熊毛北 徳山
徳山鹿野分校 徳山商工 新南陽 聖光 光
・ · · · · · 各高等学校

〔山口県高等学校合唱団〕

岩国 防府 山口 山口中央 宇部中央 萩
野田学園 萩光塩学院 · · · · 各高等学校
〔山口県高等学校管弦楽団〕

柳井 防府 山口中央 下関南・各高等学校

◎慶祝展示

◇ [美術・工芸] 周南地区各高等学校

◇ [書道] 周南地区各高等学校

◇ [写真] 下松高校 新南陽高校 宇部工業高校

◇ [囲碁] 大会風景

◇ [将棋] 大会風景

◇ [演劇] 大会風景

◇ [文芸] 昨年度個人最優秀作品 5点

◎山口県高等学校文化連盟表彰者

[功績賞]

濱野 邦昭（前山口高等学校教諭）

長年に渡って美術・工芸部門の指導に携わり、全国総文祭に多数の生徒の作品を出品させるなど、大きな実績を残すとともに、山口県美術・工芸教育の発展に寄与した。また、県総文展示3部門主管校責任者を務めるなど高文連活動にも大きく貢献した。

[優秀芸術文化賞]

該当なし

[テーマ最優秀賞]

林 蘭子（山口県立光高等学校）

[ポスター原画制作者]

尾下 里奈（山口県立光高等学校）

第33回山口県高校総文の記録 音楽関係4部門発表会

器楽・管弦楽部門

会場：光市民ホール

理事長 飯田幸生
(下関南高等学校教諭)

平成23年度第33回山口県高等学校総合文化祭の音楽関係4部門発表会は6月17日(金)、18日(土)の2日間にわたり光市民ホールにおいて催されました。また、前日16日の総合開会式においては、満員の聴衆のもと、合唱部門との合同で式典の慶祝演奏を行いました。

今年度はやや小さめなホールでしたので、参加校の3年生だけでの編成となりました。60名規模の編成となりましたが、合唱団とのバランスもよく、ホールの大きさに見合ったすばらしい演奏ができたと感じています。

今年も去年に引き続き、合唱部門と合同でヘンデル作曲のオラトリオ「メサイヤ」から“ハレルヤ・コーラス”そして佐藤眞作曲のカンタータ「土の歌」より“大地讃頌”的2曲を演奏しました。今年も合同練習は当日午前中のみという厳しい状況の中、光高等学校の柳先生の温かさにあふれる柔らかい指揮のもとで、開幕式典にふさわしく莊重で輝かしい音楽が演奏されました。その演奏はおおくの

聴衆に深い感銘を与えたことと思います。

さて、翌日の朝から2日間にわたって開催された音楽関係の4部門発表会には器楽・管弦楽部門からオーケストラ3校、ギター・マンドリン合奏2校、弦楽合奏2校が参加いたしました。多数の吹奏楽部門の参加校に混じって、その演奏は一服の清涼剤ともいえるすがすがしい演奏でした。各校ともに弦楽器の艶やかで柔らかい音色を備えた立派な演奏で、大会を大いに盛り上げました。

次回の山口大会ではさらに練習に励み、研鑽を積んだ成果を十分に発揮されることを期待しています。



合唱部門

会場：光市民ホール

理事長 田中睦
(野田学園高等学校教諭)

平成23年度第33回山口県高等学校総合文化祭総合開会式が、6月16日(木)「光市民ホール」にて、盛大に開催されました。例年のように、器楽・管弦楽部門と合唱部門と合同で慶祝演奏に参加しました。オーケストラとの大合唱（岩国高校、防府高校、山口高校、山口中央高校、野田学園高校、宇部中央高校、萩高校、萩光塩学院高校の8校・計166名）は、ホール一杯に美しく響き渡り、満員の聴衆の方々にも深い感銘を与えたことだと思います。毎年、男声が少人数であるためバランス面で心配していましたが、生徒達の熱の入った伸び伸びとした演奏のお陰で、素晴らしい合唱ができました。日頃小人数で演奏活動をしている生徒達は、他校との合同合唱は勿論のこと、オーケストラとの共演はとても貴重な体験になったことだと思います。

また、音楽4部門の発表は、6月17日(金)、18日(土)の2日間にわたり、高校生の熱気あふれる演奏が続きました。合唱単独演奏の出演校は、8校（宇部中央、慶進、山口中央、中村

女子、野田学園、岩国、防府、萩）出演者は158名でした。各校よく工夫されたプログラムで、美しく柔らかい歌声が響き渡り、個性あふれる演奏でした。

例年、合唱部の廃部・休部による参加校の減少が問題でしたが、近年男子部員が増加傾向にあり、明るい話題となっています。今後も生徒数の減少や指導者不足等の問題はありますが、この総合文化祭を契機に益々一人でも多くの合唱仲間が増えるよう願っています。

来年度は、「山口市民会館」及び「防府市公会堂」で開催されます。また次回もすばらしい演奏を期待しています。



吹奏楽部門

会場：光市民ホール

理事長 志道博資
(宇部高等学校教諭)

平成23年度第33回山口県高等学校総合文化祭
総合開会式は、6月16日(木)光市の光市民
ホールで開催されました。開幕式典では徳山高
校の熊野文政先生が周南地区高等学校合同吹奏
楽団を指揮し、開会宣言に続いてオリジナル
ファンファーレを華やかに響かせました。また、
総合開会式後の慶祝演奏では、ファンファーレ
を演奏した生徒たちが、今度は下松高校の上田
憲明先生の指揮で、「ライヴリー アヴェ
ニュー」と「ヴィヴァ マッシー」を見事にか
つ感動的に演奏いたしました。

また、音楽4部門発表会
は17日(金)と18日(土)
の2日間で開催され、52団体
1,650名の吹奏楽部員が参
加して、熱のこもった素晴
らしい演奏を披露しました。
各開催日の最後には、毎年
恒例の「翼をください」を、

今年は吹奏楽の伴奏により全員で合唱しました。
その年によって伴奏の形態が違いますが、毎回
心が温かくなり感動するものです。

今年度は主管校の光高校をはじめ、周南地区
の生徒や先生方に大変お世話になりました。最
後になりましたがお札を申し上げます。ありが
とうございました。

次回は山口市民会館での開催です。素晴らしい
大会になることを期待しております。



マーチングバンド・バトントワリング部門

会場：光市民ホール

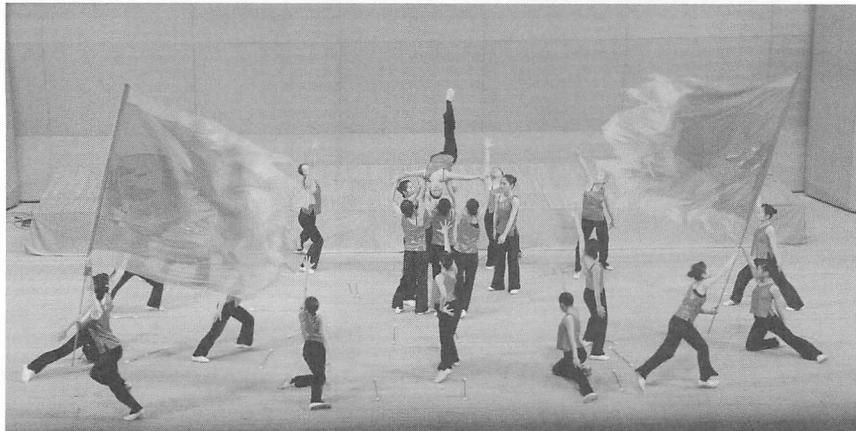
理事長 内田良一
(山口県鴻城高等学校教諭)

第33回山口県高等学校総合文化祭総合開会式が、平成23年6月16日(木)「感動の帆創造の舵。さあ進もう光りきらめく海を」というテーマのもと、山口県立光高等学校主管で光市民ホールにて開催されました。慶祝演奏では山口県鴻城高等学校吹奏楽部がマーチングの演技が披露されました。曲目は「オリンピックファンファーレ」、合唱や吹奏楽とは全く違う感動が味わえたのではないかでしょうか。山口県はマーチングに取り組んでいる学校が少なく、こういう演技を見ることもほとんどないと思います。これか

た1校でもマーチングの参加が増えるように、これから努力したいと思います。

また、山口国民体育大会・山口大会の総合開会式で中学校と高等学校の合同バンドでマーチングを披露しました。大変素晴らしい演技を披露することが出来ました。

音楽4部門発表会では、バトントワリングで誠英高等学校、慶進中学校・高等学校が参加いたしました。それぞれ日頃の練習の成果を発表しました。



日本音楽・吟詠部門

会場：アクティブやない

主管校 木村 雅世
(柳井学園高等学校教諭)

第33回山口県高等学校総合文化祭・日本音楽・吟詠部門の発表大会が、平成23年6月18日(土)、柳井市のアクティブやないを会場に開催されました。国の重要伝統的建造群保存地区に指定されている白壁の町並みにほど近い会場は、今にも雨の降り出しそうな生憎の天候にもかかわらず、一般の観覧客も多数訪れ賑わいを見せていました。

今年は県内各地より20校180名の高校生が集い、日頃の練習の成果を発表しました。

山口南総合支援学校や宇部鴻城高等学校の勇壮な太鼓、早鞆高等学校による郷土芸能「源平音頭」の華麗な太鼓が会場いっぱいに響き渡ったかと思えば、張りつめた空気の会場内に朗々

と響いた誠英高等学校の仕舞、高水高等学校の長唄など多種多様な演目は、聴衆を飽きさせることはありませんでした。また、箏では、演奏者3名の中村女子高等学校から19名の岩国高等学校まで人数に差はありましたが、それぞれの学校の特徴を存分に生かした楽曲で聴衆を魅了していました。特に、午前の部最後の合同演奏では、「花かげ変奏曲」を十七弦や三味線を加えた11校総勢21名で演奏し、会場から大きな拍手をいただきました。

他校の演奏を聴き、閉会式では講師の山崎凱千先生に御講評をいただきて、各校は、また新たな目標を確認したことでしょう。一年間研鑽を積み、来年度は下関でお会いいたしましょう。



展示3部門

美術・工芸、書道、写真部門

会場：山口市民会館

主管校 細川 邦隆
(山口中央高等学校教諭)

「感動の帆 創造の舵。さあ進もう 光きらめく海を」のテーマのもと、第33回高等学校総合文化祭展示部門は、平成23年11月11日(金)～13日(日)の3日間にわたり開催されました。会場は山口市民会館の小ホールで書道部門と写真部門の作品を展示し、展示ホールで美術・工芸部門の作品を展示しました。併設の2会場にわかつての展示でしたが、それぞれの会場ともに展示作品をスペース内に収めることができました。

【日程】

11月10日(木) 会場設営・審査・展示
11月11日(金) 9:30～17:00 開場
11月12日(土) ツ
11月13日(日) 9:30 開場
13:30～15:30 講評会
16:00 展示終了 作品返却

【作品点数】

美術・工芸部門	38校より	143点
書道部門	20校より	65点
写真部門	14校より	123点

【準備段階】

6月30日に第1回運営委員会を行いました。今後の予算の減少を見込み、可能な限り予算が掛からない運営を求められた結果として、全出品作品に出していた奨励賞の廃止、出品目録の簡素化、表彰式の廃止を決定しました。

10月19日に第2回運営委員会を行い、会場設営等の具体的な打ち合わせを行いました。

【会場設営】

11月10日(木)、山口高校、西京高校、野田学園高校、中村女子高校、山口中央高校の美術部、書道部、写真部の生徒諸君と、顧問の先生方の協力のもと、設営と作品受付をスムーズに進めることができ、予定の時間ですべての作業が終えることができました。

【会期中】

会期中に会場の山口市民会館の大ホールでもイベントがあり、そちらの来場者の方々にも観ていただけたので、結果的に多くの方々に見ていただきました。

いたいただくことができました。3日間でおよそ700名の来場者がありました。

【講評会】

13日(日) 13:30より講評会を行いました。それぞれの会場で同時進行で行いました。多くの参加者からの質問があり、好評のうちに終わりました。

【おわりに】

3部門の理事長先生をはじめ、山口地区の運営委員の先生方、また審査等協力された先生方など多くの方々の協力のおかげで無事終えることができました。来年度もよい大会になりますよう祈念いたします。

美術・工芸部門

美術・工芸部門には県内37校より143点の出品がありました。内訳は平面136点、立体5点、映像2点です。レベルの高い作品が多く、審査は公平かつ慎重に行いました。

審査にあたっては、最初に5人の審査員で審査方針と審査手順について確認しました。確認事項は以下の通りです。

1. 美術に対する多様な価値観や視点から公平に審査するために、審査はすべて投票で行い、審査員は審査中に作品に関する批評や感想は口にしない。
2. 作品に対する生徒自身の思いや気持ち、考えが込められているか留意する。
3. 教師の教え込みが強い作品、技術指導が過ぎる作品は考慮する。
4. 作品の質、技量、表現力や将来性を重視する。(学校名は伏せる)
5. 1人の審査員が1作品に重複して投票



することを避けるため、審査員別に投票用紙の色を変える。

まず最初に事前選抜を行いました。各員12票を上限として1作品1票（投票してある作品には投票しない）の投票で一次審査に上げる作品を、全体の40%を目標に選抜しました。この結果51点が一次審査に上がりました。

一次審査では、選抜する優秀賞（全体の20%）の点数の2／3にあたる19票を各員がすべて完投しました。ここでは各審査員熟慮を重ね、かなりの時間をかけて責任を持って投票にあたりました。その結果、複数票投票のある27点が優秀賞に選抜されました。

二次審査は優秀賞27点を対象に3年生以外から全国大会候補作品6点の選抜を行いました。一次審査の票はすべて外し、各員6票の完投で投票を行いました。その結果、平面5点、立体1点が全国大会に選抜されました。二次審査では審査員の票がかなり別れ、レベルの高い優秀賞作品の中から6作品を選ぶ難しさを感じました。

審査中に審査員同士の作品に関する討議をしないことで、多様な価値観や視点から公平に審査できたことだと思いますが、それだけ各審査員の識別眼や識見が問われることとなりました。

（理事長 濱崎）

書道部門

書道部門には県内20校より65点が出品され、厳正な審査により、来年の全総文とやま大会への出品候補作品4点を含む優秀賞10点が選ばれました。

さて、今年の作品傾向ですが、特に大きな変化は見られなかったように思います。漢字や仮名の創作作品、篆刻の出品もありましたが、やはり古典の臨書が大半でした。最終日の講評会は、梅光学院大学の荒瀬 宏先生により、参加者の作品について、落款印も含めて大変丁寧に講評をいただきました。特に、全国大会に向けて作品制作に取りかからなければならない生徒にとっては、改善点など具体的にアドバイスをいただきましたので、さらなるレベルアップが期待できそうです。また、他の書道部員にとっても、作品制作のポイントなどを御指導いただきましたので、今後の書道部での活動に生かしてほしいと思います。

（理事長 梶山）

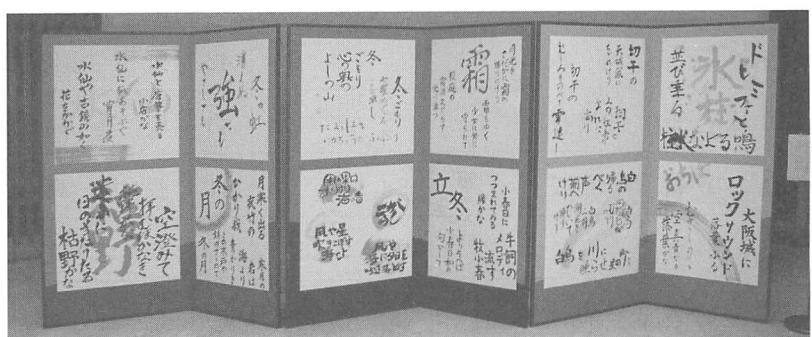
写真部門

13校から123点の作品が出品されました（昨年度は11校90点、一昨年度は63点）。昨年度からデジタル作品も選考の対象としたことや、各校写真部顧問の意欲的な取り組みの結果が、作品点数増加につながったと思われます。また、昨年度に引き続きプロカメラマンである（社）日本写真家協会会員のタカオカ邦彦先生をお迎えし、審査・講評のほかに展示最終日に撮影研修会の講師をお願いし、「プロによる写真指導」を行っていることも、写真部活動の活性化につながっていると思われます。

展示写真審査の結果12点の作品が優秀賞に選ばれ、そのうち宇部工業高校・下松高校・新南陽高校の3校5点の作品が来年度富山県で行われる第36回全国高等学校総合文化祭（写真部門 8月3日（水）～7日（日））への出品候補作品となりました。

最終日に山口市の亀山公園を会場として、タカオカ先生による撮影研修会があり、生徒・顧問計45名の参加がありました。額縁を用い、自分の「世界」を表現するというテーマでの撮影会の後、撮影者による各作品の説明、それに対する講師講評が行われました。短いながらも有意義な活動ができたと思います。主管校の山口中央高校をはじめ各校の先生方のご協力に感謝いたします。

（理事長 尾崎）



第33回山口県高等学校総合文化祭 展示3部門参加校一覧

No.	学校名	美術・工芸	書道	写真	No.	学校名	美術・工芸	書道	写真
		作品数	作品数	作品数			作品数	作品数	作品数
1	岩国高校	4	4	3	24	小野田高校	4		10
2	岩国総合高校	5	1		25	厚狭高校	1		
3	岩国商業高校	4	2		26	青嶺高校	5		
4	岩国工業高校	4		6	27	田部高校	2		
5	柳井高校	4			28	西市高校	2		
6	光高校	3			29	豊浦高校	5		
7	光丘高校	4	4		30	長府高校	5	1	
8	下松高校	1		5	31	下関西高校	1	4	15
9	下松工業高校			4	32	下関南高校	5	4	
10	熊毛北高校			9	33	大津緑洋高校	2		
11	徳山高校	5	4		34	萩商工高校	1		
12	新南陽高校	5		21	35	下関中等教育学校	5	4	
13	南陽工業高校			9	36	山口南総合支援学校	2		
14	防府高校	4	4		37	山口総合支援学校	5		
15	防府西高校	4			38	下関商業高校	5	4	
16	山口高校	5	4	8	39	高水高校	2	3	
17	山口中央高校	5	4		40	誠英高校	5		
18	西京高校	5		14	41	中村女子高校		4	
19	宇部高校	5		9	42	野田学園高校		2	
20	宇部中央高校	5	2		43	慶進高校	4		
21	宇部西高校	5	4		44	長門高校		2	
22	宇部工業高校			10	45	萩光塩学院高校	4	4	
23	宇部商業高校	1					143点 38校	65点 20校	123点 13校

第33回山口県高等学校総合文化祭 展示3部門受賞者一覧

美術・工芸部門

優秀賞（全国高総文祭出品候補作品）

学校名	学年	氏名	題名	大きさ
岩国高等学校	1	石田奈緒美	森じいの午後	F50
岩国工業高等学校	1	宮本 駿	一本道	F50(91×117)
青嶺高等学校	2	山根 瑠子	Signpost after rain	F50
豊浦高等学校	2	木村智恵子	無題	F50横
下関南高等学校	2	中本 千尋	本当の叫び	F50
下関中等教育学校	2	東 純一	明日の途中	立体90×100×180cm

優秀賞

学校名	学年	氏名	題名	大きさ
岩国高等学校	1	齋藤 真衣	作品No.1	映像
柳井高等学校	2	平原 彩	愛玩植物	B1 縦105cm×横75cm
光丘高等学校	3 3	相本 菜月 中村 千紗	雨降る子宮	立体 40cm×45cm×65cm
山口高等学校	2	田村 絵里	深淵	B1 縦
西京高等学校	2	松本 啓利	金龍	B1
宇部高等学校	2	河元 広樹	ストレス処理場	F50 横
宇部中央高等学校	2	植野 葵	朱狐	103×72.8
	2	古川 実樹	心の叫び	116.7×90.9
厚狭高等学校	2	森脇 崇文	海老	縦116.7×横90.9
青嶺高等学校	3	中津留翔子	追い討ち	B1
	2	鹿嶋美菜子	鏡の中の別世界	F50
豊浦高等学校	1	宮崎 萌子	Where Is Here…?	F50 横
長府高等学校	3	小俣 智子	安岡商店街	B1
	2	佐伯 美柚	時計パニック	F50
下関南高等学校	1	日吉 彩花	自由を夢見て	B1
大津緑洋高等学校	2	廣中 龍一	酒屋「湊」	F50
下関中等教育学校	2	若林 奈苗	生殺与奪	F50
	2	来嶋美千翔	歴史	F50
	2	藏田 美裕	作戦	F50
	1	染岡 菜月	有想	F50
下関商業高等学校	2	大下 奈緒子	ドーパミン	B1

書道部門

優秀賞（全国高総文祭出品候補作品）

学校名	学年	氏名	題名	大きさ
山口高等学校	2	宮本 明奈	臨 黃州寒食詩卷跋	半切縦
下関西高等学校	2	長岡 京香	臨 枯樹賦	半切縦
下関中等教育学校	2	西村 昂将	臨 張遷碑	半切縦
下関商業高等学校	1	繁岡 杉菜	臨 九成宮醴泉銘	半切縦

優秀賞

学校名	学年	氏名	題名	大きさ
山口高等学校	2	田村 佳織	臨 蘇慈墓誌銘	半切縦
長府高等学校	2	中村 春波	臨 風信帖	半切縦
下関西高等学校	2	岡田 純夏	臨 孔子廟堂碑	半切縦
下関商業高等学校	2	池田 奈央	臨 孔子廟堂碑	半切縦
高水高等学校	2	高間 智代	臨 乙瑛碑	半切縦
萩光塩学院高等学校	1	斎藤 志穂	臨 蘭亭序	半切縦

写真部門

優秀賞（全国高総文祭出品候補作品）

学校名	学年	氏名	題名	大きさ
下松高等学校	1	松原 佑季	儂き戦士	A3(50×65)
	1	田中真理子	でへつ。	A3(50×65)
新南陽高等学校	2	弘中 利枝	視線 作品D(デ)	58×43
	1	田畠亜香音	未来へ 作品L(デ)	58×43
宇部工業高等学校	2	潮中 稜汰	影	54×65

優秀賞

学校名	学年	氏名	題名	大きさ
熊毛北高等学校	2	藤川 夕稀	これなあに？？(デ)	42×59
新南陽高等学校	1	服部 江里	放課後 作品P(デ)	58×43
山口高等学校	2	宮崎 一希	眼差し(デ)	四つ切り
宇部工業高等学校	2	潮中 稜汰	黒い波	54×65
	2	田中 祐樹	走り切った余韻	54×65
	3	川本 晃	休日	54×65
小野田高等学校	1	小林 汐里	道遙かに(デ)	51×42

囲碁部門

会場：山口県立下関西高等学校

理事長 高野朝男
(下関西高等学校教諭)

第33回山口県高等学校総合文化祭囲碁部門第23回大会兼第36回全国高等学校文化連盟囲碁部門第25回大会県予選を、10月23日(日)に下関西高校で開催しました。参加校は10校・参加者数は42名で、盤上で高校生同士の熱い戦いが繰り広げられました。この大会は、全国大会代表と中国大会代表を決める代表決定戦と段級位認定戦に分かれて行われる大会で、代表決定戦には16名、段級位認定戦には26名の選手が参加しました。なお、今年度は女子の参加が少なく、女子団体戦を行うことができませんでした。

<大会結果>

男子団体 優勝 山口県立下関西高等学校
男子個人 優勝 下関西 木村昭太郎
2位 下関西 上村陽介
3位 山口農業 右田貴大

女子個人 優勝 田布施総合支援 原田美咲
2位 徳山商工 多田紗弥子

<上位大会への出場権>

男子個人1位と2位、および女子個人1位は平成24年8月8日、9日に富山県朝日町で開催される全国大会の団体戦のメンバーになります。また、男子個人3位と女子個人2位は同大会の個人戦に出場します。

また、12月24日(土)、25日(日)に島根県出雲市で開催された第15回中国高等学校囲碁選手権大会には、男子団体戦に下関西高校、男子個人戦には、団体戦出場者を除く県内予選の男子上位6位までの選手、女子個人戦には、上位3名が出場しました。結果については、「囲碁部門の報告」をご覧下さい。



(県大会・対局風景)



(県大会・対局風景)

演劇部門

会場：周南市文化会館

理事長 金森健一
(下関商業高等学校教諭)

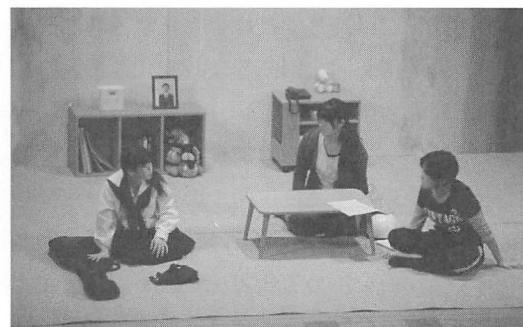


今年の県大会は10月28日(金)にリハーサル、10月29日(土)・30日(日)に本番という日程で開催されました。会場は周南市文化会館です。参加校は県内4地区の代表8校。この県大会で最優秀校に選ばれて尾道市での中国大会に出場したのは、華陵高校と山口中央高校の2校でした。

華陵高校は、全国大会優秀校東京公演準備のため夏の地区大会に参加できなかったので、県大会が新作での初舞台でした。インターネットによる人生相談を題材として、多くの観客に感動を与える素敵な作品でした。山口中央高校はわずか3人の舞台でしたが、それぞれの個性が際立つすばらしい熱演でした。残念ながら2年連続の中国大会最優秀の夢は実現しませんでしたが、山口県の演劇部は今年もがんばってるね、という言葉をたくさんいただきました。

大会の講評では篠崎先生から「舞台のリアリズム」についてお話を伺いました。

「恋人との別れのシーン」、私たちは恋人と離れたくなくて、去って行く恋人を追いかける。しかし舞台上で去って行く恋人を追いかけてしまうと、一気に二人の距離が近くなり観客は別れのさびしさを感じられない。そこで舞台では、去って行く人に向かって「さようなら」といいながら、自分も相手から離れていく演技をするのだ。こうすれば観客の心の中にさびしさを生むことができる。登場人物の心情をより深く観客に伝えるために、演劇では自然な感情とは正反対の演技をすることもある、それが逆に舞台



のリアリズムを生むのだ。現実の生活ができるだけ忠実に舞台上で演じることができれば良い演劇になる、と思っていた私たちにとって、舞台で演じることのむずかしさと面白さを感じさせてくれる講評でした。

2012年度は10月に下関で県大会、11月に周南市で中国大会が開催されます。観客あっての演劇です。山口県下のそして中国各県の高校生の創り出す素晴らしい演劇の数々をぜひご観覧ください。

第33回山口県高等学校総合文化祭(演劇部門)
第30回山口県高等学校演劇大会 上演一覧(上演順)

上 演 校	上 演 作 品	作 者 ◇は創作
◎華陵高校	Worry·Worry·Wow!	フローレス・デラコリーナ◇
宇部中央高校	範子の勉強	田上二郎(演劇部潤色)
◎山口中央高校	SISTERS	福田成樹
下関南高校	ホット・チョコレート	曾我部マコト(演劇部潤色)
○岩国総合高校	明日は	えごかず◇
防府商業高校	ゴングが鳴った	防府商業高校演劇部◇
下関中等教育学校	廣作マクベス	中屋敷法仁(演劇部潤色)
新南陽高校	はじまりの駅	ぶん(羽鳥敦司潤色)

◎は最優秀校(中国大会出場) ○は創作脚本賞

講師・審査員

篠崎 光正(演出家 日本演出者協会理事)
SHINOZAKI-STUDIO代表)
久保田修治(劇作家 演出家)
中林 英二(山口県高演協事務局会計
下関商業高校演劇部顧問)

放送部門

会場：ニューメディアプラザ山口

理事長 小倉誠司
(岩国高等学校教諭)

11月12日(土) 山口市のニューメディアプラザ山口で第33回山口県高等学校総合文化祭第18回放送部大会が開催されました。昨年度同様12校が参加。朗読部門30名(昨年度31名)、アナウンス部門21名(昨年度23名)、オーディオピクチャー部門2校(昨年度3校)、ビデオメッセージ部門3校(昨年度6校)、CM部門5校(富山総文特設部門のため昨年度は実施せず)が登場しました。

朗読部門、アナウンス部門の審査は、テレビ山口の横溝洋一郎アナウンサー、山口朝日放送の柘植忠司アナウンサー。番組(オーディオピクチャー部門、ビデオメッセージ部門、CM部門)の審査は山口放送ディレクターの田村康夫さんにお願いしました。採点だけでなく、発表者一人一人に対して丁寧なコメントを書いていただきたり、大会閉会後も遅くまで希望者に個別指導をしていただくななど、とても勉強になつた一日になりました。



大会の結果は下記のとおりです。

【アナウンス部門】

最優秀賞	下松高等学校	古賀 舞美
優秀賞	熊毛南高等学校	山本 里美
	徳山高等学校	白井 洋子
入賞	徳山高等学校	永野瀬理花
	光高等学校	上城 寧々
	岩国高等学校	新山 真梨

【朗読部門】

最優秀賞	徳山高等学校	新井 万輪
優秀賞	熊毛南高等学校	北山 美咲
	徳山高等学校	下村 楓
入賞	山口農業高等学校	大田 愛美
	山口中央高等学校	横沼 玲子
	山口農業高等学校	吉井 美穂

【オーディオピクチャー部門】

最優秀賞	岩国高等学校	竹楽物語
------	--------	------

【ビデオメッセージ部門】

最優秀賞	岩国高等学校	ミクロワールド
優秀賞	熊毛南高等学校	小さな町の大きな夢

【CM部門】

最優秀賞	熊毛南高等学校	平生の特産
------	---------	-------

各部門の最優秀賞、優秀賞を受賞した個人・団体は、8月11日(土)、12日(日)に富山市で行われる第36回全国高等学校総合文化祭に出場することになります。

将棋部門

会場：防府市文化福祉会館

理事長 岡 茂樹
(防府高等学校教諭)

全国高等学校総合文化祭将棋部門大会の県予選を兼ねて、5月28日(土)、29日(日)の2日間開催しました。開会式には、将棋専門部会長の長谷川信明先生、山口県教育庁高校教育課の内田正弘先生、事務局の西村正浩先生をお迎えしました。団体戦、個人戦の2日間開催で、延べ140人以上の盛り上がった大会になりました。

男子団体戦には16チームが参加し、4ブロックに分け総当たりのリーグ戦を行いました。各組2位までが決勝トーナメントに進出します。ベスト4に残ったのは防府B、下関西A、防府A、宇部工でした。予選で1敗し2位通過の防府Aが、粘り強さと集中力を発揮して徳山、下関西とライバル校を2-1の接戦で下し優勝しました。女子団体戦は、防府と徳山の一騎打ち。昨年全国5位の本命防府に徳山が食い下がり、3番手勝負になりましたが、敗勢の将棋を一瞬の逆転で防府が勝ち、3連覇を果たしました。男女アベック優勝は、史上初の快挙でした。

男子個人戦は64人のトーナメント戦。3回戦までは20分切れ負け制、4回戦から30秒の秒読みがつきます。決勝戦は木村君と秋山君の下関地区のライバル対決になりました。本命◎印の秋山君が先輩を振り切って初優勝を飾りました。敗者は敢闘賞を目指す親睦リーグ戦や指導対局を行いました。

女子個人戦は5人の参加で、総当たりリーグ



戦。徳山高校の杉林さんが、4連勝で初優勝しました。

<男子団体戦> 16チーム

- | | |
|-----|-----------------|
| 第1位 | 防府高校A |
| | 福永洋佑・原田達矢・藤本智博 |
| 第2位 | 下関西高校A |
| | 藤野洋平・中野寛史・木村昭太郎 |
| 第3位 | 防府高校B |
| | 伊藤大智・溝部聖也・大村正起 |

<女子団体戦> 2チーム

- | | |
|-----|----------------|
| 第1位 | 防府高校 |
| | 足立光子・大村有恵・藤原知子 |

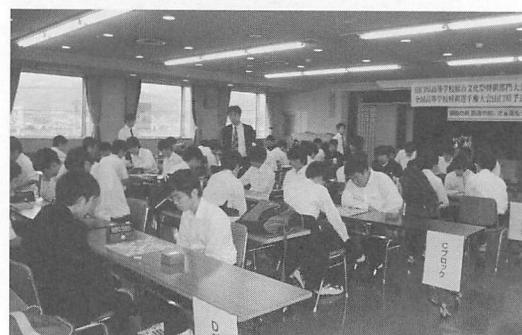
<男子個人戦> 64人

- | | |
|-----|----------------|
| 第1位 | 秋山 宜楓 (長府高校) |
| 第2位 | 木村昭太郎 (下関西高校) |
| 第3位 | 三吉 裕太 (徳山高校) |
| 第3位 | 大平 哲也 (徳山高校) |
| 敢闘賞 | 山本将太郎 (野田学園高校) |
| | 前山 航暉 (宇部高校) |

<女子個人戦> 5人

- | | |
|-----|------------------|
| 第1位 | 杉林 知紗 (徳山高校) |
| 第2位 | 青柳佐和美 (徳山高校) |
| 第3位 | 江原 瑠香 (下関中央工業高校) |

団体戦と個人戦の優勝者、女子個人戦の上位入賞者は福島県郡山市で開催された全国高等学校総合文化祭への出場権を獲得しました。



文芸部門

理事長 國嶋洋治
(徳山商工高等学校教諭)

第33回山口県高等学校総合文化祭〔第5回山口県総合芸術文化祭〕協賛事業 第9回山口県文芸コンクール大会結果報告

参加校10校

応募参加数総数60名 応募作品数85作品

部門別応募作品数

小説部門22作品 詩部門33作品 短歌部門19作品 俳句部門11作品

入賞結果（集計評点数による）

◎最優秀学校賞 1位 山口県立柳井商工高等学校

詩部門 1名 短歌部門 1名 俳句部門 1名 以上 3名

2位 山口県立徳山高等学校

散文部門 1名 文芸誌部門 1名 以上 2名

応募作品の集計結果で審査得点獲得上位者の中から、下記の生徒を平成24年度第36回全国高等学校総合文化祭（富山大会）に文芸専門部から山口県代表として推薦します。

小説部門 本田 あい 山口県立徳山高等学校 2年生

詩部門 黒田 彩美 山口県立柳井商工高等学校 2年生

短歌部門 朝妻 愛実 山口県立柳井商工高等学校 1年生

俳句部門 末永 瑞穂 山口県立柳井商工高等学校 2年生

文芸誌部門 浴 成美 山口県立徳山高等学校 2年生

以上 5名

◎部門別個人表彰

小説部門 最優秀賞「時は流れても」 山口県立徳山高等学校

本田 あい

最優秀賞「じいちゃん」 山口県立徳山高等学校

浴 成美

入選「小壺物語」 山口県立徳山高等学校

塩川 由布

「狂い桜一くるいざくら一」 山口県立西京高等学校

清水 美希

詩部門 最優秀賞「交友許容範囲」 山口県立柳井商工高等学校

黒田 彩美

入選「亡き祖母に」 山口県立徳山高等学校

木内 麻莉乃

「言い訳」 山口県立柳井商工高等学校

朝妻 愛実

「無題」 山口県立西京高等学校

清水 美希

短歌部門 最優秀賞「無題」 山口県立徳山高等学校

本田 あい

入選「無題」 山口県立柳井商工高等学校

黒田 彩美

入選「無題」 山口県立柳井商工高等学校

朝妻 愛実

俳句部門 最優秀賞「無題」 山口県立柳井商工高等学校

末永 瑞穂

入選「無題」 山口県立柳井商工高等学校

コックス・ジャステイン

第35回全国高等学校総合文化祭

～集めよう創造の輪 思いをつないでほんとの空へ～

全国高総文祭(福島大会)参加推薦校一覧

部 門	高等學校	参 加 生徒数	出 品 点 数	備 考
パ レ ー ド				※中止
演 劇	華陵高校	15		カツっ！(フローレンス・デラコリーナ作)
合 唱	萩高校	41		
吹 奏 楽	山口高校	70		※中止
器 楽 管 弦 楽	岩国高校	20		ギター・マンドリン
日 本 音 楽				
マーチングバンド・バトンツワリング				※中止
美術・工芸	下松高校		1	※作品のみ参加彫刻(『私の世界』兼重紗也香)
	岩国高校	1	1	絵画(『鮮魚売ってます!』中原奈津美)
	山口高校	1	1	絵画(『宵闇』田村絵里)
	青嶺高校	1	1	絵画(『人間製造会社(株)』中津留翔子)
	下関中等教育学校	1	1	絵画(『日常』若林奈苗)
	下関商業高校	1	1	デザイン(『海月』島田若奈)
書 道	山口高校		1	臨 蜀素帖(大塚友誉)
	下関中等教育学校		1	臨 礼器碑(疋田子規)
	長門高校		1	蘭亭序一節(時山実来)
写 真	下松高校	1	2	『ここほれ!』藤田智乃 ※作品のみ参加『鬼さんこーちら!』兼重紗也香
	新南陽高校	1	1	『なんともいえねえ』永富さと子
	宇部工業高校	2	2	『勝利』潮中稜汰 『丁髷』立石裕子
放 送	岩国高校		2	オーディオピクチャー『盛り上げよう!山口国体』 ビデオメッセージ『岩国藩鉄砲隊』
	光高校			アナウンス(木本健太郎)
	下松高校			アナウンス(古賀舞美)
	徳山高校			アナウンス(永野瀬理花) 朗読(下村楓)
	山口高校		1	朗読(何瑠 高佐原舞) ビデオメッセージ『大内のお殿様』
囲碁	下関西高校	1		個人戦男子(村野朋哉)
	徳山商工高校	1		団体戦男女混合(橋岡ちひろ)
	山口高校	2		団体戦男女混合(主将 安藤翼 副将 石川征憲)
	防府商業高校	1		個人戦女子(武谷明日果)
将 棋	防府高校	6		団体戦男子3名(主将 原田達矢 副将 福永洋佑 三将 藤本智博) 団体戦女子3名(主将 藤原知子 副将 足立光子 三将 大村有恵)
	長府高校	1		個人戦男子(秋山宣櫻)
	徳山高校	1		個人戦女子(杉林知紗)
	下関中央工業	1		個人戦女子(江原瑠香)
文 芸	柳井商工高校	1	3	(藤本芽依)
	西京高校	1	1	(右田美香)
総 合 開 会 式	山口高校	1		(坂本光規)
合 計		参加生徒数	延べ 102名(高文連補助人数 101名)	・ 21校

総合開会式

会場：会津風雅堂

全国高等学校総合文化祭に 参加して

山口県立山口高等学校 坂本 光規

2011年度の全国高等学校総合文化祭の開催地が福島県だと聞いたとき、最初は驚きました。しかし、前々から福島県の現状を自分の目で確認したいと思っていましたし、あの震災があったにもかかわらず、なんとか全国高等学校総合文化祭を開催しようという熱意に惹かれ、開会式に出席することを決意しました。

開催地である福島県会津若松市には、まず東京へ行き、そこから何本かの電車を乗り継いで行きました。福島県内に入ってから周りの景色を眺めていると、屋根にブルーシートが掛かっている家がかなり目立ちました。会津若松駅に到着して、そこから開会式の会場へ行くためのタクシーの運転手の方にさきほど見たことを聞いてみると、地震で屋根から瓦が落ちてしまつたということでした。地図で見ると一目瞭然なのですが、会津若松市は福島県でも内陸の方に位置しています。内陸でもこのような状況で、震源に近い沿岸の地域はどうなつてしまつたのだろうかと想像すら困難でした。

そして、福島県に到着してから2日目。いよいよふくしま総文総合開会式の日となりました。本番当日の朝は「僕は山口県の代表としてきたので失敗しないようにしなくては」という重圧と、「どんな開会式が始まるのだろうか」という期待が混じり、かなり緊張していました。開会式では、各都道府県の代表が自分の出身地のアピールをしました。他の都道府県の代表の方々がとても堂々と喋っているのを見て不安になりましたが、福島の方々を少しでも勇気づけられるようにと思い必死でアピールをして、失敗することなく無事に終えることができました。

日頃はあんなに多くの人の前でスポットライトを浴びて喋ったりすることは無いので終始不安でしたが、終わってみると達成感でいっぱいになっておりとても良い経験になったと思いました。

出番が終わってから、福島県代表による和太鼓の演奏、宮崎県代表による神楽や、富山県代表によるおわらがありました。どの代表のステージも力強さであふれており、今日の開会式を成功させるために練習に練習を重ねてきたのだということがとてもよく伝わってきました。

そして最後には福島県内の高校生による構成劇がありました。東日本大震災で家を失い、家族を失い、友人を失い、そして故郷を失った悲しみに負けないで明日を力強く生きていくという思いが体で、声で表現されておりとても感動しましたし、同時に福島の方々の強さを感じることもできた素晴らしい劇でした。

最初は自分に務まるのだろうかと不安でしたが、大会役員の方々の心配りによって大役を終えることができ感謝しております。実際に福島県の今を自分の目で見て感じることができ、福島県に来て本当に良かったと感じました。全国高等学校総合文化祭に出させてもらったことは自分の人生においてとても大きな経験となりました。今回の経験をこれから的人生に活かして、毎日を大切に過ごしていきたいと思います。



器楽・管弦楽部門

会場：福島市音楽堂

山口県立岩国高等学校

プレクラムアンサンブル部

3年 宗正 恒平

今年の夏、私たち山口県立岩国高等学校プレクラムアンサンブル部は、第35回全国高等学校総合文化祭福島大会の管弦楽部門に山口県の代表として参加させていただきました。私たちにとっては、初めての全国大会出場でした。そのため、このような大舞台に立てることは大変な喜びであると同時に、緊張感・責任感を伴うものもありました。

今大会は大震災で多くの被害にあった福島が会場であったため、開催が危ぶまれたこともありました。参加できることが分かって以降は、特に3年生は入学以来この大会で演奏することを一番の目標としてやってきたので、悔いの残らぬようにと、今まで以上に精一杯練習しました。演奏した「杜の鼓動－街の灯－」という曲は、部員皆で決め、一昨年の夏から一生懸命練習してきた曲です。偶然にも被災地の復興を祈

るイメージの曲であり、運命的な巡り合わせを考えずにはいられませんでした。会場では、被災地の方々に少しでも元気を取りもどしてもらいたいと思い、部員一同、心を込めて演奏しました。

今回の大会出場で、全国大会で全力を尽くせたという達成感を得ることができ、高校生活最高の思い出ができました。また、各地の高校生のやる気の満ちた様子に触ることができたことは、外での演奏機会が少なかった私たちには大変な刺激となりました。そして、被災地であるにも関わらず懸命に大会運営に努めている福島の高校生たちと接したことで、何があっても明るく前向きに生きていくことの大切さをあらためて認識することができました。

この大会を通じて、私たちは本当に多くのことを学ぶことができました。このような機会を与えて下さった方々、出場にあたりお世話して下さった多くの方々に、この場を借りてお礼を申し上げます。



合唱部門

会場：福島市音楽堂

山口県立萩高等学校 合唱部

3年 榎木さくら

今年3月11日、東北大震災で福島県は大きな被害を受けた県の一つでした。今年の全国高等学校総合文化祭の開催会場は福島となっており、以前から出場が決定していた私たちは、福島へ行くことが難しくなると予想しました。

しかし、被災地の方々が懸命に復興活動を続けられており、また歌で元気になる方もたくさんいらっしゃることを新聞やニュースで知り、私たちの歌で少しでも元気になってくればと思い、福島へ行くことを決意しました。

私たちが歌った曲は「明日があるさ」と、「友情～時を越えて今～」の二曲です。「明日があるさ」は、歌詞も明るく、ダンスもあるので元気になれる曲だと思い選曲しました。一方、「友情～時を越えて今～」は、数年前、萩高校合唱部が作曲、福島の会津高校が作詞をした合同曲ということもあり、会津高校の皆さんと実際に歌う日をとても楽しみにしていた曲でした。

当日は、全国各地の合唱団が集まり、普段聞くことができない地域の高校の演奏が聴けたので良い勉強にもなり、私たちの演奏も「明日が

あるさ」を楽しく歌いきることができました。そして、二曲目の「友情～時を越えて今～」を歌う時を迎ました。しかしながら、ハプニングが重なり、リハーサルはなく本番で初めて一緒に歌うこととなり、楽しみな反面、緊張や不安もありました。しかし、会津高校の皆さん明るく堂々とした歌いぶりのおかげで、私たちも安心して歌うことができました。ずっと合同合唱を待ち望んでいたので、歌い終わるのが惜しいほど、本当に楽しく歌うことができました。一番うれしかったのは、演奏終了後、会場の観客の方々から大きな拍手をいただいたことです。予想以上に盛大な拍手で、会津高校と一緒に歌えて良かったなと思いました。曲名通り、お互いの様々な思いが時を越え、友情となったことが伝わったのだと思います。

今回、私たちは福島の方々に元気になってほしいという気持で訪れたのですが、現地の方々にはとても明るく親切に接していただき、逆に私たちの方が元気をいただきました。福島で歌えたこと、会津高校の皆さんと歌えたこと…。普段絶対に経験することができない今回の訪問は、私たちの一生忘れられない思い出となりました。



日本音楽部門

会場：棚倉町文化センター倉美館

福島大会を視察して

日本音楽部会 理事長
山口県立岩国高等学校教諭 木坂佳津江



今年度日本音楽部門は大会不参加で、理事長の視察のみとなった。以下報告したい。

8月1日、東京駅。「Maxやまびこ」に乗り換えるため、しばらくホームで待つ。到着した列車内を清掃員の方たちが、手際よく掃除していく。Tシャツには、「がんばろう日本！」ではなく、「がんばるぞ日本！」とある。強い意志を感じられ、被災地に近づいてきたのだと実感する。そして乗車。清掃員の方が、各乗車口に立ち「ご利用ありがとうございます。」と一人一人に深々とお辞儀される。あの日からしばらく交通網がストップし、観光客の足も途絶えがちだったからだろうか。JR東日本の東北新幹線ならではの光景だったのかもしれない。「Maxやまびこ」は2階席。車窓には青々とした田園風景どこまでも続き、「米どころ東北」を感じさせる。3月11日の出来事が嘘のような一面の青さだった。

さて日本音楽部門の大会報告に移りたい。当初は、8月3日、4日と須賀川文化センターで開催される予定だったが、県南部の棚倉町「棚倉町文化センター倉美館」に変更された。交通の便のきわめて悪いところで、東京から一旦目的地を通り越して北上し、郡山に宿泊。そこから水戸と郡山を結ぶJR「水郡線」（1時間か2時間に1本ぐらいの便）で1時間以上南下して棚倉町に移動。そこからがまた大変だった。「会場まで徒歩20分」とあったので歩き始めたのはよいが、実はかなりの上り坂。山の中腹といったところにその会場があり、結局40分かけて山登りをしてしまった。

こうして8月2日は、専門部会と顧問会議に出席。午後からはリハーサルを視察した。8月3日は本番1日目。開会行事までは写真の通り、今年のマスコットキャラクター「ペしゅ（フランス語で桃）」と来年のマスコットキャラクター「らいと君（富山の薬売りスタイルの雷鳥）」とそれぞれの県の高校生のやりとり。会場変更のためステージの出入り口が狭くペしゅの頭とらいと君の羽が引っかかってしまい、高校生たちが両側から圧縮して出入りさせる一幕が、笑いを誘っていた。

本番で目を引いたのは、天理高校の雅楽「蘭陵王」の演奏と舞、また長唄の「越後獅子」を唄なしの琴と三味線の合奏曲にアレンジしたもの、さらに古曲「春の曲」をきちんと地唄入りで二人の高校生が演奏したもの、などだった。今年の選曲は、一昨年昨年と同じ曲もある中で、また少し違った傾向を示しており、三味線を加えた曲が多くなっていた。また総合高校の芸術科が日々の練習成果を発表するというのもいくつかあり、さすがは芸術科の生徒たちだと感心した。また私は平成12年の静岡大会と平成18年の京都大会、そして今回と三度の全国大会を見させていただいたが、1チームの構成人数が、かなり減少しているように思った。以前は15～25名の団体がほとんどだったのに、5、6名～10数名の学校がかなり増えている。どこも邦楽離れの傾向があるのだろうか。

山口県内の日本音楽部門では、全国大会を経験した学校が多くなり、それを機に難度の高い曲へのチャレンジやさまざまな技術の習得が進んでいるのではないかと思われる。各学校の部員確保と一層のレベルアップが期待されるところである。来年度以降、日本音楽部門加盟校で協力し合い、全国大会へは途切れることなく是非参加の方向で考えていきたいと思っている。



美術・工芸部門

会場：福島県立美術館（福島市）

理事長 濱崎 洋
(柳井高等学校)

全国高校総文祭に出品して福島県立美術館に鑑賞に行った生徒のみなさんより感想をいただいています。

「宵闇」

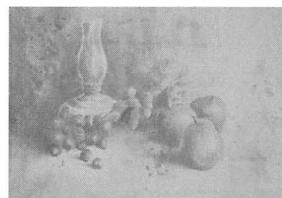
山口県立山口高等学校

2年 田村 絵里

今回、福島総文に行って一番感じたことはやる気がすごいなあということです。

まず、福島に着いてみると、駅などで現地の方々が温かく迎えてくださいました。また、街の至る所に、総文のキャラクターぺしゅが様々な形で飾られており、街全体で盛り上げていこうという雰囲気が伝わってきました。美術館では様々な県の人達の作品が飾ってあり、とても高校生とは思えないほど、みんな上手だなあと思いました。

福島県に来られて本当によかったです。



「海月」

下関市立下関商業高等学校

3年 島田 若奈

私はこの全国高等学校総合文化祭に参加しても良い経験ができました。出展した作品は今まで一番作製時間が長く思い入れの強い物で、選ばれた時の喜びも大きかったです。



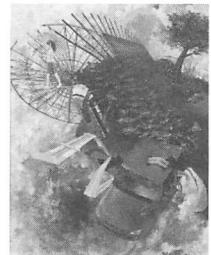
開催地である福島県の皆さんには3月の震災で大きな被害を受けたのにも関わらず準備をし、温かく迎えてくださり人間の強さを感じました。そういう方々や今まで支えてくれた方々へ感謝し、福島を感じたことを忘れずにこれからも作品を作っていくと思います。

「日常」

山口県立下関中等教育学校

5回生 若林 奈苗

今回、第35回全国高校総文の会場が福島県で、災害からそれほど経っていない中の開催でしたが、地元のたくさんの方達のおかげでとても意味のある貴重な時間を過ごすことができました。全国から選ばれた同じ高校生の作品を見て、自分とは違った構成や表現方法からは特に良い刺激を受け、また、全国レベルの立体作品は、一体どうやって作ったのだろうと楽しませてくれるものばかりでした。この貴重な体験を今後の自分の作品にも活かしたいです。

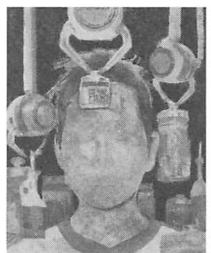


「人間製造会社(株)」

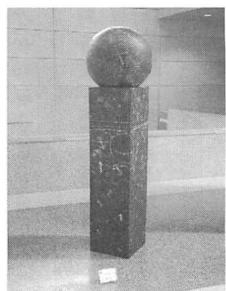
山口県立青嶺高等学校

3年 中津留翔子

山口県代表の一人として選ばれて喜びと共に、私の絵が全国へ出品されてもいいのかという不安がありました。会場に入り、全国レベルの絵を見た時もその不安はなくなりませんでした。全国の他の作者の独特的創造力を目の当たりにして、私は「もっと画力をあげたい。」「もっと表現豊かにしたい。」と、目標をしっかりと持つことができました。このような経験ができたことを大変幸せに思います。ありがとうございました。



岩国高 中原奈津実



下松高 兼重沙也香

書道部門

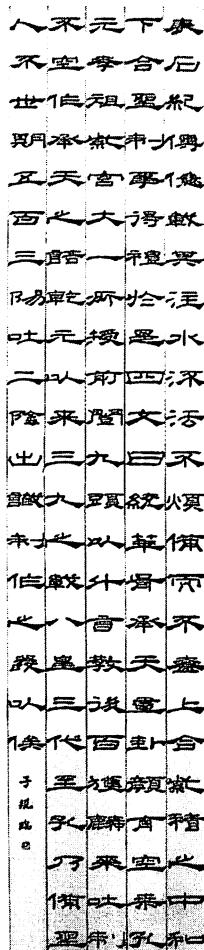
会場：郡山ユラックス熱海

理事長 桶山 美智子
(長府高等学校教諭)

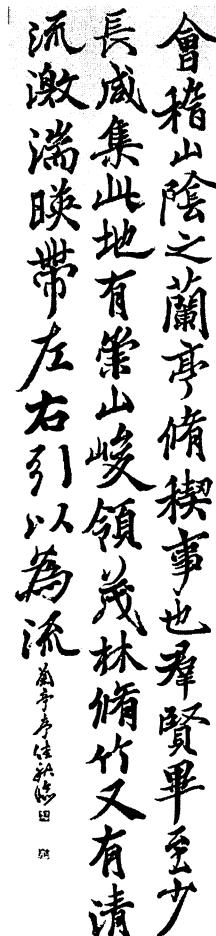
本年度の全国総合文化祭書道部門は、東日本大震災の影響により、審査のみが8月31日に行われ、その他の展示や交流会はすべて中止となりました。生徒のみなさんは県大会以降さらに練習を重ね、大作に制作し直したものを大きな会場で全国の生徒の作品と一緒に鑑賞することを楽しみにしていたことと思います。残念ながら展示はありませんでしたが、作品は立派に表装され福島へ送られました。全国の生徒の作品が作品意図集とともに作品集としてまとめられ、出品生徒に配布されました。その作品集から作品を紹介します。



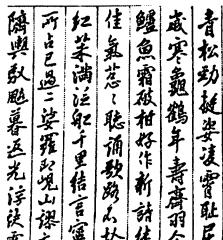
山口県立山口高等学校
3年 大塚 友誉
『臨 蜀素帖』



山口県立下関中等教育学校
3年 正田 子規
『臨 礼器碑』



長門高等学校
2年 時山 実来
『臨 蘭亭叙之一節』



写真部門

会場：福島県立博物館
会津若松市文化センター

山口県立新南陽高等学校 写真部 3年 永富さと子



私は、全国高校総合文化祭福島大会に参加しました。福島県は、3月11日の東日本大震災や、それにもなう原発事故において被災地となったところです。

震災があったばかりの頃は「開催されるのだろうか」また、開催されることが決まってからも、被災地に行くこと、また、わからないことが多い放射能について、不安でした。不安ながらも全国高校総文祭に参加したい気持ちが勝り、参加を決意しました。

実際に会津若松市に到着してみると、想像とは違う、ニュース映像で目にする光景はなく、地震があったとはとても思えませんでした。会津若松市は被害も比較的少なく、避難場所にもなっているということで、4日間快適に過ごせました。ただ現地の人聞くと地震の時は建物が崩れるのではないかというほど強く揺れたようで、実際に公共の建物で立ち入り禁止になっている建物をいくつか目にしました。被害は少なかったのですが、風評被害の影響で観光客が少なくて困っているとも聞きました。実際に五色沼の撮影会の時には、観光客は私たちの他には少なく、例年では考えられないほど少ないとのことでした。会津若松市は歴史がある町で見所も多く、是非多くの方に足を運んで欲しいと思いました。

交流会では、他県の人たちと6～8人のグループで活動しましたし、2度の食事を一緒にとりました。初めて会う人とのコミュニケーションに最初は戸惑いましたが、うち解けて行くにつれ、自分たちとは違うそれぞれの高校生

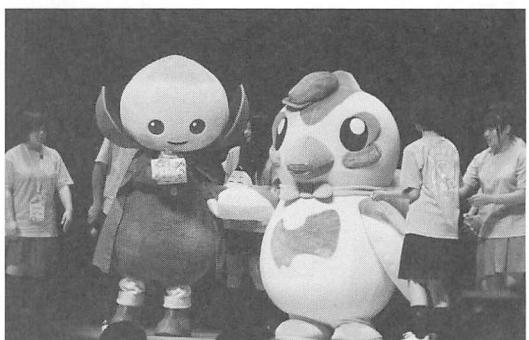
活などを知り、視野も広がり、友達を増やすことができました。五色沼での撮影会では、自然豊かな山中で、多数の色とりどりの沼を散策しました。私はそれまで、自然を被写体にする機会がほとんどなく、木の葉・植物や流木などを撮影する際に、カメラの設定方法や、撮影アングルを先生に教えてもらいながら、楽しんで撮影できました。これから撮影に生かしていきたいと思います。

最終日には立木義浩先生の講演を聞きました。写真に関する時代の流れ、撮影の面白さや難しさ、プロカメラマンの話などを聞くことができ、とても勉強になりました。話の中



で、今後私が撮影の目標にしていくことは、立木先生の「われわれが日常使う身近な擬音語・擬態語・間投詞などの言葉を写真に取り込むことができれば」という言葉にあるように、写真に表現力を持たせることです。私は将来カメラマンにはなりませんが、カメラとずっと関わっていき、写真を通して人と交流していくたら良いと思います。

私は、全国高校総文祭を通して、たくさんの貴重な経験ができたことに喜びを感じています。この4日間の思い出は、私の一生の宝物です。



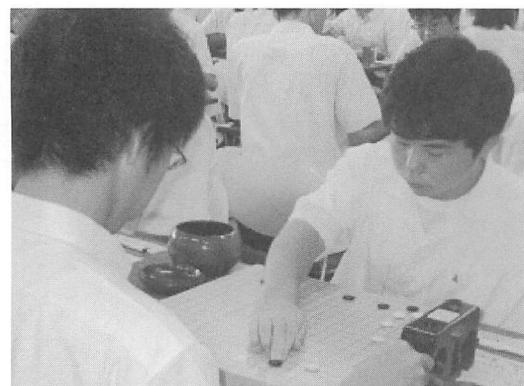
囲碁部門

会場：コラッセふくしま（福島市）

山口県立下関西高等学校

3年 村野 朋哉

8月4日(木)・5日(金)に福島県福島市で開催された全国高等学校総合文化祭の囲碁部門の個人戦に出場しました。山口県の代表として恥ずかしくないよう精一杯戦い抜こうと、前日まで準備をして気合を入れて大会に臨みました。2日間で全6局を戦いましたが、その中で特に印象に残ったのは2局目と3局目でした。どちらも優勢からのちょっとした気の緩みによる逆転負けでした。特に3局目は残り十数手で終局という場面での見落としだったので本当に情けなく、悔いの残る試合でした。全国の舞台で最後まで勝ちきることの難しさ、そして自分の未熟さを改めて思い知らされました。結局、一日目は自分の力を出し切ることができず全敗という大変不本意な結果に終わってしまいました。



しかし二日目の二試合では気持ちを切り替え、初日の反省を生かして優勢になっても気を抜くことなく、最後まで打ち切ることができました。

結果は二勝四敗と、内容的にも満足のいくものではありませんでした。しかし、全国という大舞台で、トップクラスの選手と6局も対局をすることができたこと自体大きな収穫でした。負けた試合でもそれなりの手応えを感じ、今後に向けての大きな自信になりました。

私は高校生になって囲碁に出会ったのでまだ3年間しか囲碁を嗜んでいないのですが、囲碁を通して様々な角度から状況を見極めることの重要さなど多くのことを学ぶことができました。また、たくさんの気の合う友を得ることができました。高校の部活としての囲碁はこの大会で終わりですが、この経験を糧にこれからさらに精進して、さらなる力を付けていきたいと思います。



演劇部門

会場：丸亀市綾歌総合文化会館
アイレックス（香川県）

山口県立華陵高等学校 舞台芸術部

顧問 片岡 直史

私たち華陵高校舞台芸術部は、全国高校総文演劇部門で、中国ブロック代表としては23年ぶり2回目、山口県勢としては初の文部科学大臣賞（最優秀賞）を受賞することができました。多くの方々に支えていただいた、この大会への出場について御報告いたします。



演劇部門の高校総文は、前年度のブロック大会最優秀校によるコンクールです。出場権獲得時に在籍していた高校3年生は卒業しますので、それを補うための新入部員勧誘から始めなければなりません。華陵高校もこの例に漏れず、平成22年度の中国ブロック大会メンバーからキャスト4人（うち男子1人）とスタッフ2人がいなくなり、平成22年12月から、当時の中学生に向けて猛烈な勧誘活動を始めました。

まずは、ブログの開設。舞台芸術部に少しでも興味を持ってもらうために、日々の練習や話し合い、舞台装置作りなどについて部員が交代で発信しました。

次に、自主公演。2月に地元下松のホールで、中国ブロック大会最優秀賞受賞凱旋公演を行いました。

最後に、メディアへの情報発信。地域のテレビ局・ラジオ局・新聞社に取材していただき、「部員不足」を訴えました。

このような努力の結果、4月に1年生8人（うち男子2人）が入部。ようやく全国大会へのスタートを切りました。

しかし、震災で大会実施そのものが危ぶまれ、代替会場が香川に決まったのは5月末。照明プランも見切り発車のまま、6月中旬に新メン

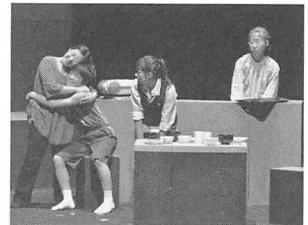
バーで初舞台。裏方を務めるスタッフは全員1年生でしたが、何とか乗り切りました。また、いただいた感想やアドバイスを元に、舞台装置と台本を作り直しました。

7月、1学期末の考査前日に日帰りで香川県での打合せに出席。ホールの残響に驚き、台詞量を減らすために台本を大幅に改訂。細かい演技の変更も含め、「日本一」をめざしたスクランブル&ビルトは、8月2日の現地入り後も、大会直前まで続きました。

発表当日の8月5日、多少のミスを乗り越えて（音響室にいた顧問の私がミスに気づかないくらい自然に生徒は処理していました）、上演は無事終了。残響音処理の難しいホールであつたにもかかわらず、他校の先生からは「台詞は全て聞き取れました」とお褒めの言葉をいただき、舞台を記録していたスタッフの方にも「最高です、感動しました」と言っていただいたほどの、納得のいく舞台でした。

最終日、8月7日に発表された結果は、「文部科学大臣賞」。もう一度国立劇場で上演できる喜びとプレッシャーを全身に感じつつ、そしてこの大会が開催され、上演ができたことに感謝しつつ、会場を後にしました。（国立劇場での「優秀校東京公演」の様子は、9月4日、NHKで全国放送されました。）

この大会で、文部科学大臣賞受賞以上に多くのことを学び、演劇の持つ力を再確認することができました。このような貴重な経験をする機会を与えてくださった各方面の方々に改めてお礼を申し上げ、御報告とさせていただきます。



放送部門

会場：テープ審査

理事長 小倉誠司
(岩国高等学校教諭)

放送部門は当初8月6日(土)、7日(日)に福島県郡山市の「ビッグパレットふくしま」でアナウンス部門。朗読部門、オーディオピクチャー部門・ビデオメッセージ部門が開催される予定でしたが、震災の影響で急遽会場での実施はせず、CD-R及びminiDVによるテープ審査になりました。大会の会場に予定されていた「ビッグパレットふくしま」が、地震による損傷が少なかったため、福島県下最大の避難所になたのがその理由のようです。

7月に東京で行われたNHK杯全国高校放送コンテストの会場に、福島県代表の放送部員の姿がありましたが、彼女たちが着ていたTシャツに、福島総文の大会マスコットキャラクターの「ペしゅ」が涙を流している絵がプリントされていたのが印象的でした。

大会は録音での参加の形になりましたが、山口県からは下記のとおりです。



ビデオメッセージ部門「岩国藩鉄砲隊」

【アナウンス部門】

- 光高等学校 木本健太郎「無題」
下松高等学校 古賀 舞美「山口国体総合開会式」
徳山高等学校 永野瀬理花「山口美少女図鑑」

【朗読部門】

- 山口高等学校 何 瑞「少年譜」
山口高等学校 高佐原 舞「くちぶえ番長」
徳山高等学校 下村 楓「カシオペアの丘で」

【オーディオピクチャー部門】

- 岩国高等学校「おいでませ！山口国体」

【ビデオメッセージ部門】

- 岩国高等学校「岩国藩鉄砲隊」
山口高等学校「大内のお殿様」

結果は、残念ながら前年の宮崎大会に続いてどの部門も入賞を果たすことはできませんでした。



オーディオピクチャー部門「おいでませ！山口国体」

将棋部門

会場：南東北総合卸センター

理事長　岡　茂樹
(防府高等学校教諭)

全国高等学校総合文化祭将棋部門が、8月4～5日に、福島県郡山市で開催されました。東日本大震災と原発事故の影響で開催が危ぶまれましたが、福島市から会場を変更し例年通り実施されました。震災から5ヶ月、福島は大変な状況だったにも関わらず、大会中は震災の爪跡を感じることもなく、地元の高校生の熱意の中で対局に集中することができました。

予選はスイス式の4回戦。3勝で決勝トーナメント進出です。団体戦の防府高校は男女とも惜しくも予選敗退。特に女子は、3年連続入賞にあと少しでしたが、今年のチームは実力不足でした。一方個人戦では全国の強豪を相手に、長府高校の秋山君が実力を發揮し、大活躍のベスト8進出。また、県大会にも初参加だった下関中央工業高の江原さんも予選突破と善戦しました。

<男子団体> 防府高等学校

(原田達矢・福永洋佑・藤本智博)

一回戦 愛工名電高校(愛知県) 負(0勝3敗)
二回戦 鳥取工高校(鳥取県) 勝(2勝1敗)
三回戦 広島学院高校(広島県) 負(1勝2敗)
四回戦 昭和薬付高校(沖縄県) 負(1勝2敗)

1勝3敗 予選敗退



<女子団体> 防府高等学校

(藤原知子・足立光子・大村有恵)

一回戦 青豊高校(福岡県) 負(1勝2敗)
二回戦 鶯谷高校(岐阜県) 勝(3勝0敗)
三回戦 富士見高校(静岡県) 勝(2勝1敗)
四回戦 南山高校(愛知県) 負(1勝2敗)

2勝2敗 予選敗退

<男子個人> 秋山宜楓(長府高校)

一回戦 高橋正太郎(東邦大東邦高) ……勝
二回戦 和田直人(桐蔭高) ……勝
三回戦 宮城秀行(首里高) ……負
四回戦 高木亮太朗(富山高) ……勝

3勝1敗 予選通過

1回戦 和田直人(桐蔭高) ……勝
準々決勝 大平駿悟(郡山萌世) ……負
第5位

<女子個人> 杉林知紗(徳山高校)

一回戦 松川和泉(正智深谷高) ……負
二回戦 藤原里菜(杵築高) ……勝
三回戦 大内彩央(葦山高) ……勝
四回戦 別府佳美(谷村工高) ……負

2勝2敗 予選敗退

<女子個人> 江原瑠香(下関中央工業高校)

一回戦 成田弥穂(仙台第二高) ……負
二回戦 野村麻衣(大間々高) ……勝
三回戦 井上美賀子(育英西高) ……勝
四回戦 櫻井美由紀(生浜高) ……勝

3勝1敗 予選通過

1回戦 関穂奈美(岩村田高) ……負
ベスト32



文芸部門

会場：国立磐梯青少年交流の家
(猪苗代町)

山口県立柳井商工高等学校文芸部

3年 藤本 芽依

今年の全国高等学校総合文化祭は、東日本大震災の影響で開催そのものも危ぶまれましたが、文芸部門は会場をいわき市から猪苗代町に移して開催されました。

東京で東北新幹線に乗り換えて、郡山で宿泊し、翌日猪苗代町に入りました。猪苗代町は自然の溢れた、とてもどかなところでした。文芸部門の主会場である「磐梯青少年交流の家」は、後ろには磐梯山がそびえ、前には猪苗代湖があるという福島の美しい自然を満喫できるところでした。開会式では、あいさつをされる方がみんな「福島県に来ていただき本当にありがとうございます。」と心から言っておられることに胸を打たれ、私が福島県に来たことだけでも意義があったのだと思いました。

私が参加した詩部門では、午前中交流会がありました。まず、一人ひとりが各県の宣伝を含めた自己紹介を行いました。面白いことを言ったわけでもない…というよりも何が言いたかったのかわからないような私の自己紹介に、他の参加者の方々が拍手をくださったことで「ああ、いい人ばかりでよかった…」と安心し、私の緊張はほぐれていきました。総文祭がレベルの高い人たちの集まりであることを実感しました。

午後からの分科会では参加者の作品の合評会を行いました。作者の朗読の後、参加者が意見や感想を言い合ったり、作者に質問したりし、最後に講師の橋浦先生から指導・助言をいただくという流れで会は進行しました。総文祭では、いろいろな人に出会うことができました。恋愛についての詩を書く人もいれば、人間の心情を書く人、私には理解できないような難しい詩を書く人もいました。しかし、そんな人たちも、話してみれば共通の話題もあり、面白い人たちばかりでした。総文祭に行くまでは、誰とも口を利かずに終わろうと思っていましたが、行ってみれば気さくな人たちばかりで、とても楽しい時間を過ごすことができ

ました。今回は震災の影響もあって、規模が縮小されたり、開催場所が変更になったりもして、参加する前から不安に感じる面もありましたが、終わってみればそんな不安もどこかへ消えてしまいました。来年、後輩たちはどうなるのか、とても楽しみです。

山口県立西京高等学校

3年 右田 美香

第35回全国高等学校総合文化祭（福島大会）にて、私は散文部門で出場しました。散文部門での分科会は、講師の宍戸芳夫先生から参加者の作品について、指導、又は助言をいただくことになりました。

文芸部門作品集に載っている掲載順で評価されていました。

私は山口県だったので、27番目と、後半の方の順番でした。そのため、途中休憩が挟まれ、いまかいまかと待ち遠しかったです。

指導や助言を受けるだけでなく、大まかな指導を受けたあとは、講師の先生に「ここはそうじゃなくて、こうだ」と教えたり、他の参加者からの質問に答えたりする時間も各自取られました。

私の場合は、参加者からの質問はありませんでしたが、講師の先生に詳しく伝えたかったことについて尋ねられたので、その返答をしました。が、緊張や、予想以上の悪評に上手く伝えることができませんでした。何よりも、「伝えたいこと」をそのまま口頭で伝えても良いのだろうか、と迷ってしまったのです。ここで全て伝えてしまえば、わざわざ作品として仕上げる必要はないのですから。そのため、私は中途半端に伝えてしまった気がして、講師の先生に申し訳ないと思いました。

今回、全国高等学校総合文化祭に参加でき、私は良かったと思っています。今回、言われたことをもとに、これからもっと良い作品を書けることができるようになれたらな、と思いました。

山口県高等学校文化連盟自主事業実施校一覧 No.1

数字は実施年度（62～63は昭和、1～23は平成）、※は平成24年度実施予定、（定）は定時制、（分）は分校

番号	事業 学校	ピアノ	マリンバ	フルート	胡弓打楽器	尺八と琴	交響楽団	演劇	金管合奏 みんなdeリズム	ソプラノ 電子オルガン	リコーダー・ ヴァイオリンと チエロ
1	周防大島	63				7	3,4,10	10,21			
2	岩国								1		
3	岩国総合						11		1		
4	坂上			63	11		5	3			
5	広瀬		14	63			17	20		21	
6	高森						2				
7	岩国商業			3				62,15			
8	岩国工業						2	6,8			
9	柳井						7	11			
10	柳井商工						11,14	1,4,11,14			
11	熊毛南	63					6,17	12,※		19(分)	
12	田布施農工					15(分)	3,18	5,※		18(分)	
13	田布施工業						20	16			
14	光	63					8,23	17	定20		
15	光丘						8,11	14			
16	下松	63			12	7	15				
17	華陵	63					8	1			
18	下松工業						1				
19	熊毛北						2,14	63,7			
20	徳山		4(定)		10(定)	8(定)	15	12			
21	徳山北		63				4,11	8		21	
22	鹿野		3		10		9	1,16			
23	新南陽	63					22	5,14			
24	徳山商工		5	63				34,7	1		
25	南陽工業		1				62				
26	防府										
27	防府西						10		1		
28	防府商業		63(定)				12	6	1		
29	佐波			63		7					
30	山口		62(定),16(定)			15(定)	2				
31	山口中央	63	12		10	13					
32	西京	62					4	7			
33	山口農業						5,21	3,※			
34	宇部	63									
35	宇部中央		1(定)			14(定)	10,19	63			
36	宇部西						14	10,23			
37	宇部商業			63			62,6	3			
38	宇部工業		13	2			8				
39	小野田		63(定)	19(定)				22			
40	厚狭			1			15,21	9,18			
41	小野田工業		63(定)					4			
42	美祢	62	23		9		4	2		18	
43	青嶺						63	10			22
44	田部						1,13	18,20			
45	西市						63	22			

ピアノ…………弘中 孝
 マリンバ…………水野与旨久
 フルート…………西田直孝トリオ
 胡弓…………姜建華・楊宝元
 トランペット…………田宮堅二
 尺八と琴…………中村明一、八木美知依
 オペレッタ…………木月京子、ひとりオペラ
 交響楽団…………山口県交響楽団

演劇…………劇団のんた、宇都芸術座、劇団海峡座
 金管合奏…………東京金管五重奏団
 打楽器…………韓国の太鼓と踊り
 デュオコンサート…………三輪 郁、菅沼ゆづき
 ソプラノ…………鶴木絵里
 リコーダー・リュート…………吉沢実、永田平八
 電子オルガン…………神田 将
 みんなdeリズム…………フランシス・シルヴア

山口県高等学校文化連盟自主事業実施校一覧 No.2

数字は実施年度（62～63は昭和、1～23は平成）、※は平成24年度実施予定、（定）は定時制、（分）は分校

《自主事業》【山口県交響楽団演奏会】



慶進高等学校中高 1年 森本 智美

私はオーケストラの演奏を聴いて、クラシック音楽をより身近に感じができるようになりました。

演奏された曲目のなかには知っている曲が多かったですが、生の演奏で聴くとまた違った迫力があったと思います。「ラデッキー行進曲」では前向きな気持ちになったり、「運命」の演奏では緊張した気持ちになったりするというように、演奏を聴いていろいろな気分になりました。音楽の力はすごいものだと改めて感じました。

曲ごとの解説も興味深くて、どの曲にも様々な意味が込められているのだと思います。そういったことを知っていくのも面白そうです。

生の音楽を聴いて、音楽をもっと好きになりました。このような機会を大切にしていきたいです。

慶進中学校 1年 岡崎 説俊

僕は初めて指揮者をしました。プロの指揮を見ていると、とても簡単そうに見えたけどステージに立ってみると全く違いました。足がガクガクふるえてしまい、一瞬で緊張てしまいました。指揮棒をふりあげはじめる時のタイミングがつかめないほどでした。オーケストラの人たちの目が僕に集中し心臓がバクバクした。

こういうのをプロの指揮者は何も思ってなくて指揮をしていると思うと「さすがプロだな。」と思います。

オーケストラの指揮者は約30種類以上ある楽器のすべての楽譜が頭にはいっていると聞いたことがあります。どのタイミングでどういうふうに楽器が奏でられるかを指揮棒1本でたくみに演奏を弾きだすのは、まるで魔術師のように思いました。スローなテンポやダイナミックなところを自由自在にして、まるで楽器をあやつるかのように一つの曲をしあげているという所に感動しました。やっぱりプロの指揮者は簡単になれるものではないと思いました。

オーケストラの指揮というとても貴重な体験をさせてもらってうれしいです。音楽に対する気持ちが変わりました。

本当に指揮をして良かったと思います。



《自主事業》 【巡回演劇公演】 宇部芸術座

宇部西高等学校

・とても良い話だと思いました。命の大切さや、その他にももっと大切なものが学べました。今回の公演を見られて本当に良かったです。

(1年女子)

・印象に残ったシーンは鬼を殺したゆきの父がゆきを見た時鬼のような形相をしていたという場面です。ゆきが鬼の家族だと思えるシーンでした。演劇を見て、見た目や噂よりも心は優しいと受け入れることで印象の変わり方がこんなにも違うのかと思いました。

(3年女子)

・演劇を初めてちゃんと観ました。人に伝えたいことを伝えるのは大変なことだけど皆さんすごいなと思いました。すごく楽しかったです。

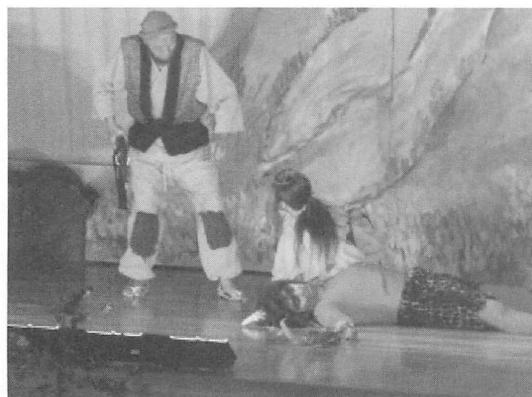
(3年女子)

・一人ひとりの演技に迫力があってすごくよかったです。ずっと目が離せませんでした。

(3年女子)

・今回の演劇はとても楽しかったです。出演者だけでなく裏方の人などもいて、演劇が成り立っているのだなと思いました。

(2年男子)



《自主事業》 【ヴァイオリンとチェロのコンサート】



豊浦総合支援学校高等部 2年 芦浦 薫

今日はお忙しいところ来校していただきありがとうございました。

顔を見ていきを合わせたり、笑顔で演奏しているところや感情をこめて演奏してるところなどを見て、動いてしまうほど楽しくなりました。

また演奏しに来てください。楽しみにまっています。

豊浦総合支援学校小学部 6年 永友 真輝

鍵富弦太郎さん、湯原拓哉さん、今日はとてもすばらし演奏をありがとうございました。

ぼくが気に入った曲は、ロンドンデリー・エアです。この曲の時のチェロとバイオリンのひびきがとてもよかったです。ありがとうございました。

豊浦総合支援学校高等部 1年 山村 陸

ヴァイオリンとチェロの生の音は、すごく迫力があり、ジンジンと体にひびく感じがしました。

テンポの速い曲は、一小節に沢山の音符を速く弾いてたので、「すごいテクニックだなあ」と思いました。

ヴァイオリンの人とチェロの人で、息をピッタリ合わせて演奏していたので、かっこよかったです。

機会があったら、違う曲も聴いてみたいと思いました。

《自主事業》 【マリンバコンサート】

美祢高等学校



《補助事業》【弦楽とピアノの演奏会】



西市高等学校 1年 田坂 真佑

今日の演奏を鑑賞してみて、曲想によって表情や動きが違うことに驚きました。曲が強く激しいときは表情が強く、動きが激しく、弱く優しい感じのときは表情は和やかで、動きもゆっくりで、曲を表情と動きで表現している所がすごいなと思いました。最後の『赤とんぼ』を聴いたときは、いろんな国の人たちと親近感がわいてきた気がします。もっともっと世界中へ飛び立って、もっともっと日本の曲を弾いてもらって日本のことを使ってもらえたたら嬉しいなと思いました。

スーパーカルテットのみなさん、素敵なお演奏をありがとうございました。私が演奏を聴いてみて、強く感じたことは、みなさんがとても楽しく演奏をしていたことです。私が弾ける楽器は少ないけれど、もっともっと音楽を楽しめたらしいなと思います。

私は生であまり聴いたことがないので、曲を全身で聴いた感じを一生忘れません。これからも、いろんな国で頑張ってください。

西市高等学校 1年 田中 華江

今日のこの演奏を聴いて、たった4人なのにもかかわらず、その力強さ、美しさに思わず圧倒されました。

体全体で表現されていた姿もとても美しく、1時間ほどで人生の美しさを一気に感じたような気持ちになりました。とても贅沢な時間でした。演奏中聴かせてくださったお話を、私の心に強く残っています。

自分の好きなことで国境も越え、活躍なさっている方々を、とても尊敬します。私も、いつか、もし出来るなら、自分の好きなことで広い世界を見ることが出来たらな、と思いました。そして、いつかそうなれるように、もっと努力と時間を使って力をつけていこうと思っています。国によって違う音楽を改めて聴いてみると、その国ごとの良さをいっぱいに感じることができ、とても楽しかったです。生の演奏の迫力を初体験できて、とても感動しました。

平成23年度 山口県高等学校文化連盟 事業報告

※斜体は事務局関係

月	日	事業	会場
4	13	会計監査 平成22年度「高文連会報」発行	山口中央高校
	19	第1回高文連企画運営委員会	山口中央高校
5	6	高文連評議員会 平成22年度集録「高文連」発行	山口市：セントコア山口
	24	(社)全国高等学校文化連盟第1回通常総会	東京：ホテルフロラシオン青山
	28 ~ 29	県高校総合文化祭(将棋部門)	防府市文化福祉会館
6	9	青少年劇場小公演「ヴァイオリンとチェロのコンサート」	豊浦総合支援学校
	16	第33回県高校総合文化祭総合開会式	光市民ホール
	17 ~ 18	県高校総合文化祭音楽4部門発表会	光市民ホール
	18	県高校総合文化祭(日本音楽部門)	アクティブやない
7	1	第22回中国地区高文連関係者合同会議	島根県：大田市 あすてらす
8	2 ~ 7	(社)全国高等学校文化連盟各専門部会	福島県
	3 ~ 7	第35回全国高等学校総合文化祭	福島県
	4	(社)全国高等学校文化連盟加盟団体代表者会議	福島県郡山市
	27 ~ 28	第22回全国高等学校総合文化祭優秀校東京公演	東京：国立劇場大劇場
9			
10	6	青少年劇場小公演「マリンバコンサート」	美祢高校
	22	県高校総合文化祭(文芸部門)	徳山商工高校
	23	県高校総合文化祭(囲碁部門)	下関西高校
	26	補助事業「カルテット(ヴァイオリン、ピオラ、チェロ、ピアノ)コンサート」	宇部中央高校
	29 ~ 30	県高等学校総合文化祭(演劇部門)	周南市文化会館
	31	補助事業「カルテット(ヴァイオリン、ピオラ、チェロ、ピアノ)コンサート」	西市高校
11	1	補助事業「カルテット(ヴァイオリン、ピオラ、チェロ、ピアノ)コンサート」	防府高校
	10 ~ 13	県高校総合文化祭展示3部門(美術・工芸、書道、写真)	山口市民会館
	12	県高校総合文化祭(放送部門)	ニューメディアプラザ山口
	12 ~ 13	山口県中学校文化連盟総合開会式	周南市文化会館・周南市美術博物館
	16	第1回高文連理事長会	山口中央高校
	19	第13回高校生文芸道場中国ブロック大会	岡山県：就実大学
	26 ~ 27	第49回中国地区高等学校演劇発表会	広島県尾道市：テアトロシェルネ
12	8	第22回全国高文連研究大会	長野県軽井沢町：プリンスホテルウエスト
	9	全国高文連第2回通常総会 実務担当者会議	長野県軽井沢町：プリンスホテルウエスト
1			
2	3	第2回高文連理事長会	山口中央高校
	23	第2回高文連企画運営委員会	山口中央高校
3	16	平成23年度中国地区高文連実務担当者会議	島根県：浜田高校
	25	第31回器楽・管弦楽スプリングコンサート	下関市生涯学習センター
【その他】 県高校総合文化祭準備(実行)委員会			
総合開会式・音楽4部門発表会(光高校)			
展示3部門(山口中央高校)			
日本音楽(柳井学園高校)			
囲碁部門(下関西高校)			
放送部門(岩国高校)			
将棋部門(防府高校)			
文芸部門(徳山商工高校)			
※以上、主管校を中心に開催			
各専門部会………部会長校を中心に開催			
各専門部研修会………県下各地において開催			
※巡回演劇教室3公演、巡回音楽教室(山響)2公演			
※補助事業3公演			

平成23年度 山口県高等学校文化連盟会計決算書

収入総額 ￥18,194,353-
支出総額 ￥16,218,841-
差引残高 ￥1,975,512-

{収入の部}

(単位:円)

区分	予算額	決算額	増減(減△)	摘要
繰越金	3,061,392	3,061,392	0	
加盟費	12,490,000	12,463,000	△ 27,000	
(内訳)	12,320,000 65,000 105,000	12,289,200 69,200 104,600	△ 30,800 4,200 △ 400	全日制350円×35,112人 定時制・総合支援学校 50円×1,384人 学校負担金 100円×1046学級
補助金	4,949,000	2,657,801	△ 2,291,199	
(内訳)	649,000 4,300,000	649,000 2,008,801	0 △ 2,291,199	県総文祭補助金 全総文祭補助金
調整基金から繰入	0	0	0	
寄付金	0	10,000	10,000	匿名
雑収入	9,608	2,160	△ 7,448	預金利息
合計	20,510,000	18,194,353	△ 2,315,647	

{支出の部}

区分	予算額	決算額	増減(減△)	摘要
運営費	975,400	937,248	38,152	
(内訳)				
事務用品費	200,000	199,908	92	事務機器維持費 事務用品等
通信費	250,000	211,940	38,060	電話 郵便 運送料等 傷害保険料
分担金	525,400	525,400	0	全国高文連会費 賛助会費 中国高文連分担金 山口県文連会費
会議費	1,900,000	1,793,060	106,940	全国(県外)会議 県内会議 研究大会 研究大会参加費 会議用消耗品 中国地区会議
事業費	17,129,610	12,457,338	4,672,272	
(内訳)				
県総文祭	6,574,610	4,984,272	1,590,338	総合開会式 各部門大会開催費
全総文祭	6,100,000	3,371,495	2,728,505	生徒旅費補助 引率旅費補助 運送費
自主事業	1,862,000	1,782,000	80,000	自主事業7公演 補助事業3公演
大会補助金	50,000	50,000	0	特別支援学校文化祭
専門部会費	2,213,000	1,964,994	248,006	通信費 全国分担金 研修費 役員旅費保険
印刷費	320,000	295,837	24,163	集録 会報 県総文祭会報 封筒
中高連携費	10,000	8,740	1,260	中高文連交流事業
調整基金	0	0	0	
特別会計繰出金	0	1,000,000	△ 1,000,000	
予備費	504,990	31,195	473,795	分担金
合計	20,510,000	16,218,841	5,291,159	

調整基金会計決算書

前年度繰越	一般会計へ繰出し	決算額
7,900,000	0	7,900,000

全国高等学校文化連盟研究大会(山口大会)積立金決算書

前年度繰越	取崩額	決算額
1,000,000	△ 1,000,000	0

上記の通り相違ありません

平成24年4月11日

監事

樋山

吉直

監事

中村龍夫

中村

平成23年度 山口県高等学校文化連盟特別会計決算書

収入総額	¥2,000,135-
支出総額	¥299,488-
差引残高	¥1,700,647-

{収入の部}

(単位:円)

区分	予算額	決算額	増減(減△)	摘要
繰越金	0	0	0	
積立金取崩収入	0	1,000,000	1,000,000	
繰入金収入	0	1,000,000	1,000,000	一般会計より
雑収入	0	135	135	預金利息
合計	0	2,000,135	2,000,135	

{支出の部}

区分	予算額	決算額	増減(減△)	摘要
運営費	0	106,828	△ 106,828	
(内訳)				
事務用品費		106,198	△ 106,198	事務用品
通信費		630	△ 630	振込手数料
会議費	0	192,660	△ 192,660	研究大会(長野大会) 視察
予備費	0	0	0	
合計	0	299,488	△ 299,488	

上記の通り相違ありません

平成24年4月//日

監事 稲山



監事 中村龍夫



平成24年度 山口県高等学校文化連盟 事業計画

※斜体は事務局関係

月	日	事業	会場
4	11	会計監査 平成23年度「高文連会報」発行	山口中央高校
	18	第1回高文連企画運営委員会	山口中央高校
5	11	高文連評議員会 平成23年度集録「高文連」発行	山口市:セントコア山口
	22	全国高等学校文化連盟定時総会	東京:ホテルフロラシオン青山
6	26 ~ 27	県高校総合文化祭(将棋部門)	防府市文化福祉会館
	10	補助事業「ピアノデュオコンサート」	萩高校
14	第34回県高校総合文化祭総合開会式	山口市民会館	
	15 ~ 16	県高校総合文化祭音楽4部門発表会	防府市公会堂
16	県高校総合文化祭(日本音楽部門)	菊川ふれあい会館アブニール	
	20	自主事業「山口県交響楽団演奏会」	奈古高校:阿武町町民センター
22	自主事業「山口県青少年劇場小公演・バイオリンとチェロのコンサート」	下関短期大学付属高校	
	29	第23回中国地区高文連関係者合同会議	島根県:
7	5	自主事業「山口県交響楽団演奏会」公演	岩国総合支援学校
	19	自主事業「巡回演劇・劇団のんた」公演	熊毛南高校
8	8 ~ 12	(社)全国高等学校文化連盟各専門部会	富山県
	8 ~ 12	第36回全国高等学校総合文化祭	富山県
9	9	(社)全国高等学校文化連盟加盟団体代表者会議	富山県:富山市
	25 ~ 26	第22回全国高等学校総合文化祭優秀校東京公演	東京:国立劇場大劇場
10	24	自主事業「山口県青少年劇場小公演・マリンバ・コンサート」	萩総合支援学校
	27	自主事業「巡回演劇・劇団のんた」公演	田布施農工高校
11	20	県高校総合文化祭(文芸部門)	徳山商工高校
	21	県高校総合文化祭(囲碁部門)	宇部高校
26	26	自主事業「巡回演劇・劇団海峡座」公演	山口農業高校
	28	県高等学校総合文化祭(演劇部門)	下関市民会館
12	10	県高校総合文化祭(放送部門)	ニューメディアプラザ山口
	10 ~ 11	山口県中学校文化連盟総合開会式	山陽小野田市文化会館
16	16 ~ 18	県高校総合文化祭展示3部門(美術・工芸、書道、写真)	山口市民会館
	17	第1回高文連専門部理事長会	山口中央高校
17	17	第14回高校生文芸道場中国ブロック大会	山口県:
	24 ~ 25	第50回中国地区高等学校演劇発表会	山口県周南市:周南文化会館
12	6	第24回全国高等学校文化連盟研究大会(山口大会)	下関市:海峡メッセ下関
	7	全国高等学校文化連盟実務担当者会議	下関市:海峡メッセ下関
23 ~ 24	23 ~ 24	第16回中国高等学校囲碁選手権大会	山口県山口市:小郡地域交流センター
1		山口県中文連・高文連合同調査研究打ち合わせ会	山口中央高校
2		第2回高文連専門部理事長会	山口中央高校
		第2回高文連企画運営委員会	山口中央高校
3	15	平成24年度中国地区高文連実務担当者会議	島根県:浜田高校
	30	第32回器楽・管弦樂スプリングコンサート	山口市民会館
【その他】 県高校総合文化祭準備(実行)委員会			
総合開会式・音楽4部門発表会(山口高校)			
展示3部門(関係専門部・運営校:山口中央高)			
日本音楽、吟詠部門(下関短期大学付属高校)			
演劇部門(下関南高校)			
囲碁部門(宇部高校)			
放送部門(周南総合支援学校)			
将棋部門(下関西高校)			
文芸部門(徳山商工高校)			
※以上、主管校等を中心に開催予定			
各専門部会………部長会を中心に開催予定			
各専門部研修会………県下各地において開催予定			
※全国高等学校文化連盟研究大会(山口大会)実行委員会			
※巡回演劇教室3公演、巡回音楽教室(山響)2公演			
※補助事業3公演			

平成24年度 山口県高等学校文化連盟会計予算書

収入総額 ¥17,920,000-
支出総額 ¥17,920,000-

{収入の部}

(単位:円)

区分	予算額	前年度予算額	増減(減△)	摘要
繰 越 金	1,975,512	3,061,392	△ 1,085,880	
会 費	12,354,000	12,490,000	△ 136,000	
(内訳)	12,180,000 69,000 105,000	12,320,000 65,000 105,000	△ 140,000 4,000 0	全日制350円×34,800人 定時制・総合支援学校 50円×1,380人 学校負担金 100円×1050学級
補 助 金	3,584,000	4,949,000	△ 1,365,000	
(内訳)	584,000 3,000,000	649,000 4,300,000	△ 65,000 △ 1,300,000	県総文祭補助金 全総文祭補助金
調整基金から繰入	0	0	0	
雑 収 入	6,488	9,608	△ 3,120	定期利息
合 計	17,920,000	20,510,000	△ 2,590,000	

{支出の部}

区分	予算額	前年度予算額	増減(減△)	摘要
運 営 費	1,175,000	975,400	199,600	
(内訳)				
事 務 費	400,000	200,000	200,000	事務機器維持費 事務用品 ホームページ制作、維持管理費
通 信 費	250,000	250,000	0	電話 郵便 運送料等 傷害保険料
分 担 金	525,000	525,400	△ 400	全国高文連会費 賛助会費 中国高文連分担金 山口県文連会費
会 議 費	1,500,000	1,900,000	△ 400,000	全国(県外)会議 県内会議 会議用お茶 中国地区会議
事 業 費	14,349,000	17,129,610	△ 2,780,610	
(内訳)				
県総文祭	5,567,000	6,574,610	△ 1,007,610	総合開会式 各部門大会開催費
全総文祭	3,900,000	6,100,000	△ 2,200,000	生徒旅費補助 引率旅費補助 運送費 参加負担金
自主事業	1,782,000	1,862,000	△ 80,000	自主事業7公演 術業3公演
大会補助金	450,000	50,000	400,000	特別支援学校文化祭 演劇、文芸、囲碁中国大会補助金
専門部会費	2,310,000	2,213,000	97,000	通信費 全国分担金 研修費 役員旅費保険
印 刷 費	320,000	320,000	0	集録 会報 県総文連会報 封筒
中高連携費	20,000	10,000	10,000	中高文連交流事業
調 整 基 金	500,000	0	500,000	
予 備 費	396,000	504,990	△ 108,990	
合 計	17,920,000	20,510,000	△ 2,590,000	

平成24年度 調整基金会计予算書(案)

前年度繰越	一般会計から繰入れ	今年度末残高
7,900,000	500,000	8,400,000

平成24年度 山口県高等学校文化連盟特別会計予算書

収入総額 ￥1,701,000-
支出総額 ￥1,701,000-

{収入の部}

(単位：円)

区分	予算額	前年度予算額	増減(減△)	摘要
繰越金	1,700,647	0	1,700,647	
雑収入	353	0	353	預金利息
合計	1,701,000	0	1,701,000	

{支出の部}

区分	予算額	前年度予算額	増減(減△)	摘要
負担金	800,000	0	800,000	研究大会負担金
運営費	700,000	0	700,000	事務用品
予備費	201,000	0	201,000	
合計	1,701,000	0	1,701,000	

山口県高等学校文化連盟規約

昭和62年4月1日制定
平成元年4月1日改正
平成2年4月1日改正
平成3年4月1日改正
平成4年4月1日改正
平成6年4月1日改正
平成8年4月1日改正
平成9年4月1日改正
平成15年4月1日改正
平成16年4月1日改正
平成18年4月1日改正
平成20年4月1日改正
平成21年4月1日改正
平成22年4月1日改正
平成23年5月6日改正

第1章 総 則

(名 称)

第1条 この連盟は、山口県高等学校文化連盟と称する。

(事務局)

第2条 本連盟の事務局を山口市宮島町6番1号山口中央高等学校に置く。

(目的)

第3条 この連盟は、高等学校における生徒の創造活動の向上充実を図り、文化活動の健全な発展と芸術文化の振興に資することを目的とする。

(事 業)

第4条 この連盟は、前条の目的を達成するために、次に掲げる事業を行う。

- (1) 山口県内の高等学校による文化行事の開催に関する事業。
- (2) 全国高等学校文化連盟が主催する行事への派遣に関する事業。
- (3) 芸術文化に関する研修会、講習会、鑑賞会、講演会等の開催に関する事業。
- (4) 高等学校等の文化活動に関する調査研究事業。
- (5) 高等学校による文化活動の国際交流に関する事業。
- (6) その他前条の目的の達成に必要な事業。

(組 織)

第5条 この連盟は、山口県内の公立及び私立すべての高等学校（中等教育学校後期課程を含む。以下、「高等学校」という。）並びに高等部を設置している特別支援学校をもって組織する。

2 山口県内を七つの地域に分け、地域ごとに連合体を組織することができる。この場合において、地域の区分は、山口県高等学校校長会の区分と同じものとする。

第6条 この連盟に、次の専門部を置く。

2 演劇、器楽・管弦楽、合唱、吹奏楽、マーチングバンド・バトントワリング、日本音楽、吟詠剣詩舞、美術・工芸、書道、写真、囲碁、将棋、放送、文芸、自然科学の各部門とする。

第2章 役 員

(役 員)

第7条 この連盟に次の役員を置く。

- (1) 会長 1人
- (2) 副会長 若干人

(3) 評議員	各加盟校ごとに1人
(4) 支部長	7人
(5) 専門部会長	15人
(6) 専門部理事長	15人
(7) 監事	2人
(8) 参与	若干人

(役員の選出)

第8条 役員の選出は、次のとおりとする。

- (1) 会長及び副会長は、評議員の互選により選出する。
- (2) 評議員は、加盟校の校長をもって充てる。
- (3) 支部長・専門部会長・専門部理事長は、各地域及び専門部の推薦に基づき、会長が委嘱する。
- (4) 監事及び参与は評議員会の推薦に基づき、会長が委嘱する。

2 役員の兼任は妨げない。

(役員の職務)

第9条 役員の職務は、次のとおりとする。

- (1) 会長は、この連盟を代表し、会務を統括する。
- (2) 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるとき又は会長が欠けたときはその職務を行う。
- (3) 評議員は、評議員会に出席し、この連盟の事業について審議する。
- (4) 支部長・専門部会長・専門部理事長は、企画運営委員会を構成し、この連盟の会務を審議し、執行する。
- (5) 監事は、会計を監査する。
- (6) 参与は会長の諮問に応ずる。

(役員の任期)

第10条 役員は高等学校等に在職する者とし、その任期は2年とする。ただし、再任を妨げない。

2 役員に欠員が生じたときは、必要に応じて補充する。ただし、任期は、前任者の残任期間とする。

第3章 会議

(会議)

第11条 この連盟の会議は、次に掲げるとおりとし、会長が必要に応じてこれを招集する。

- (1) 評議員会
- (2) 企画運営委員会
- (3) 理事長会

2 会議の議長は、会長がこれに当たる。

3 会議は、構成員の2分の1以上の出席がなければ、開会することができない。

4 会議の議事は、出席者の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長がこれを決定する。

5 会議に出席できない構成員は、代理人に表決を委任することができる。この場合において、前2項の規定の適用については、会議に出席したものとみなす。

(評議員会)

第12条 評議員会は、次の事項を審議し、決定する。

- (1) 規約の制定及び改廃に関する事項
- (2) 予算及び決算に関する事項
- (3) その他、連盟の運営に係わる重要事項

(企画運営委員会)

第13条 企画運営委員会は、次の事項を審議し、決定する。

- (1) 評議員から委任された事項
- (2) 会務の運営及び執行に関する事項

- (3) その他、連盟の運営に係わる軽易な事項
- 2 企画運営委員会に事業の運営及び執行のために委員会を置くことができる。
- 3 委員会は、事業を主管する学校長を委員長とし、委員として当該事業担当の教職員若干人及び専門教職員をもってこれに充てる。
- 4 委員会の委員の任命及び委員会議の招集は、委員長が行うことができる。

(理事長会)

第14条 理事長会は、次の事項を審議し、決定する。

- (1) 企画運営委員会から委任された事項
- (2) その他各専門部の運営に係わる事項

第4章 会 計

(経 費)

第15条 この連盟の経費は、各高等学校等の加盟費、補助金、寄付金及びその他の収入をもつて充てる。

(予算及び決算)

第16条 この連盟の収支予算は、評議員会の決議により定め、収支決算は、会計年度終了後、監事の監査を経て次の評議員会でその承認を得なければならない。

(会計年度)

第17条 この連盟の会計年度は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

(会計経理)

第18条 この連盟の会計経理の手続きについては、企画運営委員会の議決を経て、別に定める。

第5章 事務局

(事務局)

第19条 この連盟の事務を処理するため、事務局を置く。

(運 営)

第20条 事務局の運営に関しては、企画運営委員会の議決を経て、別に定める。

第6章 雜 則

第21条 この連盟の規約の施行について必要な事項は、評議員会の議決を経て、別に定める。

附 則

この規約は、昭和62年4月1日から施行する。

山口県高等学校文化連盟諸規程

[会計規程]

昭和62年4月1日制定
平成4年4月1日改正
平成5年4月1日改正
平成8年4月1日改正
平成20年4月1日改正
平成23年5月6日改正

第1条 この規程は、山口県高等学校文化連盟規約に基づき、会計経理に関し必要な事項を定めるものとする。

第2条 すべての収入、支出は予算に計上しなければならない。

第3条 会長は、收支予算書及び事業計画書の案を作成し、これを評議員会に提出しなければならない。

第4条 会計経理は、収入科目、支出科目及び整理科目を設けて経理の整理をし、現金及び預金出納簿を備え、全ての経理内容を記入するものとする。

第5条 会長は、決算報告書について、監事の監査を受けた後、これを評議員会に提出しなければならない。

第6条 各高等学校は、毎年5月31日までに、加盟費を納入するものとする。

加盟費内訳

①各高等学校生徒数に以下の金額を乗じたもの

(全日制生徒)	350円
(定時制、特別支援学校高等部生徒)	50円

②各学校の学級数に100円を乗じたもの。（定時制、特別支援学校は除く）

第7条 この規程の執行に関し必要な事項は、会長が定める

附 則

この規程は、昭和62年4月1日から実施する。

[事務局規程]

昭和62年4月1日制定
昭和62年7月14日改正
平成23年5月6日改正

第1条 この規程は、山口県高等学校文化連盟規約に基づき、事務局の運営に関し必要事項を定めるものとする。

第2条 事務局に次の職員を置く。

（1）事務局長
（2）事務局員 ア 事務局次長 イ 総務係 ウ 会計係

第3条 事務局長は、会長の命を受け、事務局の事務を統括する。

第4条 事務局次長は、事務局長を補佐する。

第5条 事務局総務係は、事務局長の命を受け、総務・企画・文書等に関する事項を分掌する。

第6条 事務局員会計係は、事務局長の命を受け、会計に関する事項を分掌する。

第7条 事務局の会計に関する規程その他事務処理上必要な諸規程は、別に定める。

第8条 その他事務局の細目的事項は、会長が別に定める。

第9条 会長が命令する出張等の旅費は、山口県旅費規程に準じて支給する。

附 則

この規程は、昭和62年4月1日から実施する。

山口県高等学校文化連盟表彰規程

昭和62年4月1日制定
昭和62年7月14日改正
平成元年4月1日改正
平成2年4月1日改正
平成6年4月1日改正
平成8年4月1日改正
平成15年4月1日改正
平成18年4月1日改正
平成24年5月11日改正

第1条 山口県高等学校文化連盟規約第4条6号に基づく表彰規程を次のように定める。
(表彰の種類)

第2条 本規程に基づく表彰は、次のとおりとする。

(1) 文化功労賞

(2) その他、会長及び企画運営委員会が必要と認めたもの

(文化功労賞)

第3条 本賞は、山口県高等学校文化連盟加盟校の生徒であって、当該年度の卒業予定者を対象として授与する。

第4条 受賞人員は在籍生徒数120名に対し1名の割合を原則とする。

第5条 本賞の受賞者の選考は、当該学校に一任する。

第6条 本賞の受賞者の選考基準は、次のとおりとする。

(1) 人格、識見共に優秀と認める者

(2) 芸術文化活動歴が優秀である者、ただし、その活動は学校の内外を問わない。

第7条 各学校は、受賞者を決定し、別記様式(1)により、本連盟事務局あて報告するものとする。

第8条 本賞の授与は、卒業式に関する行事に際し、施行することを原則とする。

(その他、会長及び企画運営委員会が必要と認めたもの)

(優秀芸術文化賞)

第9条 本賞は、山口県高等学校文化連盟加盟校の生徒であって、14部門において、全国大会等で特に優秀な成績をおさめたと認められた個人並びに団体を対象とする。

(功績賞)

第10条 本賞は、山口県高等学校文化連盟加盟校の教職員であって、長年にわたり本連盟の発展に寄与した者を対象とする。

(優秀指導者賞)

第11条 本賞は、山口県高等学校文化連盟加盟校の教職員であって、14部門において、全国大会等で優秀賞を授与され、且つ、長年にわたり部の指導に当たってきた者を対象とする。

第12条 第9条、第10条、第11条の授賞については、高文連企画運営委員会に諮り、これを決定する。本賞の授与は県総文祭の総合開会式で行うことを原則とする。

附 則

この規程は、昭和62年4月1日から施行する。

山口県高等学校文化連盟旅費支給基準

[旅費支給基準]

昭和62年4月1日制定
昭和63年4月1日制定
平成元年4月1日制定
平成11年4月1日改正
平成13年4月1日改正
平成16年4月1日改正
平成22年4月1日改正

第1条 会長が招集する会議等の旅費は、山口県旅費規程に準じて支給する。

第2条 県総文祭の運営に関する旅費は、委託された主管校から山口県旅費規程に準じて支給する。

第3条 全国高等学校総合文化祭に関する旅費は引率教員は山口県旅費規程に準じて支給する。

生徒は、〔交通費実費（学割・団体割引）+宿泊費（大会規定料金）×2泊〕×1/3とする。

※新幹線のみで100km以上の場合は特急指定料金を含む。（ただし県内は除く）

※在来線で100km以上の場合は急行または特急指定料金を含む。（ただし県内は除く）

[調整基金細則規程]

第1条 規約第4条の事業を円滑に遂行し、財務の健全化を図るため調整基金を設ける。

第2条 調整基金の額は、年度予算に計上して積み立てるものとする。

第3条 調整基金に属する現金は、金融機関への預金等最も確実な方法により保管するものとする。

第4条 調整基金は、事業執行上の財源が著しく不足する場合において、当該不足分を補うための財源に充てるときに限り、評議員会の決議によりこれを処分することができる。

附 則

1 この規程は、昭和20年4月1日から施行する。

2 この細則の施行前の調整基金については、この細則による執行とみなす。

平成23年度 山口県高等学校文化連盟役員

職 名		氏 名		支部・専門部						所属校							
会長	副会長	松井根健芳	中村喜之							山口中央高中国関西短期大学付属高	山口中央高中国関西短期大学付属高	山口中央高中国関西短期大学付属高	山口中央高中国関西短期大学付属高	山口中央高中国関西短期大学付属高	山口中央高中国関西短期大学付属高		
参考与	支部長	川野あきら													山口高		
		松根澤竹本川光村垣	藤竹長時中中	健正芳信朗明郎喜司	治信朗明郎喜司	国井山防山宇下長	支支支支支支支	支支支支支支支	支支支支支支支	支支支支支支支	支支支支支支支	支支支支支支支	支支支支支支支	支支支支支支支	支支支支支支支	岩柳徳山宇下萩	
専門部会長		中松牛時佐松(藤鞠福中長松村松)	村井見光藤根休澤川永村川根中井	芳良正善知健部(藤鞠福中長松村松)	彦朗紀治信二晃喜明治雄誠	喜治彥朗紀治信二晃喜明治雄誠	演器合吹マーチングバンドパントワーリング	樂管唱奏本詠藝術	樂弦樂部	樂樂部	樂樂部	樂樂部	樂樂部	樂樂部	樂樂部	下下野宇山岩(柳長新下防岩德山)	
専門部理事長		金飯田志内木(演帽尾高岡小國大)	森田中道田坂休崎山崎野倉嶋田	健幸博良好佳津智洋子利男樹司治子	一生睦資一江(演帽尾高岡小國大)	劇管弦樂部	樂樂部	樂樂部	樂樂部	樂樂部	樂樂部	樂樂部	樂樂部	樂樂部	樂樂部	下下野宇山岩(柳長新下防岩德山)	
監事		三中吉村英龍	太夫													防府商京業高	
事務局長	事務局次長	西細大境	村川田谷	正邦和公	浩隆子美												
事務局員(総務)	事務局員(会計)																

平成24年度 山口県高等学校文化連盟役員

全国高文連の歌

全国高等学校文化連盟制定
向川栄美作詞
乗松美紀作曲



1. てをのばせばほら きっとだれかがささえてくれる
2. よびかければほら きっとだれかがこたえてくれる



みーわたせーば ほらなかまがいつでもそばにいる きみ
こころをひらけば ほらなかまがいつでもまっている きみ



はひとりじゃない さある きだそう
はひとりじゃない さあは ばたこ



ぼくらのぶんかを つくるため一に
ぼくらのぶんかを きづくため一に

全国高文連の歌

一、手を伸ばせばほら

きっと誰かが支えてくれる

見渡せばほら

仲間がいつでもそばにいる

君は一人じゃない

さあ歩きだそう

僕等の文化を創るために

二、呼びかけばほら

きっと誰かが応えてくれる

心を開けばほら

仲間はいつでも待っている

君は一人じゃない

さあ翔こう

僕等の文化を築くために

山口県高等学校文化連盟
「高文連」編集委員

(各 部 門)

合 唱	田 中 瞳	(野田学園高等学校)
マーチングバンド バトントワリング	内 田 良 一	(山口県鴻城高等学校)
器 楽・管 弦 楽	飯 田 幸 生	(県立下関南高等学校)
吹 奏 楽	志 道 博 資	(県立宇部高等学校)
演 戲	金 森 健 一	(下関商業高等学校)
日 本 音 楽	木 坂 佳津江	(県立岩国高等学校)
美 術・工 芸	演 崎 洋	(県立柳井高等学校)
書 道	相 山 美智子	(県立長府高等学校)
写 真	尾 崎 勝 利	(県立新南陽高等学校)
囲 柁	高 野 朝 男	(県立下関西高等学校)
将 棋	岡 茂 樹	(県立防府高等学校)
放 送	小 倉 誠 司	(県立岩国高等学校)
文 芸	國 嶋 洋 治	(県立徳山商業高等学校)
自 然 科 学	大 田 和 子	(県立山口中央高等学校)

事 務 局 長	西 村 正 浩	(山口県立山口中央高等学校)
事 務 局 次 長	細 川 邦 隆	()
総 务	大 田 和 子	()
会 計	境 谷 公 美	()



平成23年度
山口県高等学校文化連盟集録
「高 文 連」

表紙デザイン／布川拓海
(山口中央高校3年)

編集・発行 山口県高等学校文化連盟事務局
〒753-0043 山口市宮島町6-1
山口県立山口中央高等学校内
電話 083-922-0032
FAX 083-932-0813

